

事務事業評価調書

事務事業名	読書活動支援者配置事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成14年度	改正内容	「臨時雇員員の通勤補助費の支給に関する基準」の改正											
(2) 直近の改正	平成23年度													
(3) 根拠法令等	読書活動支援者配置事業実施要領													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	市立小中学校の児童・生徒											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	児童・生徒の豊かで幅広い読書活動の推進												
(7) 事業概要	司書教諭免許または司書資格を持つ人もしくは同等の能力を有する人を対象に募集し、面接のうえ合否を決定し、実施要領に基づき支援者を配置し、学校図書館の充実を図るとともに、児童・生徒の豊かで幅広い読書活動を推進します。小学校では1人2校を、中学校では1人2～3校をそれぞれ担当し、1週間ごとに担当校を回る勤務となっています。													
(8) H27事業別予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	6	中事業	1	小事業	1
(9) 事業費と財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		14,517	14,391	14,512	15,537	52,178							
	人件費	職員数	人	0.70	0.60	0.70	0.70	0.80						
		総額(B)	千円	5,810	4,769	5,847	5,847	6,536						
	総事業費(A+B)		20,327	19,160	20,359	21,384	58,714							
	特定財源(C)		71	68	71	0	220							
	(内訳)	国	0	0	0	0	0							
		府	0	0	0	0	0							
		その他	71	68	71	0	220							
	市負担(D)		20,256	19,092	20,288	21,384	58,494							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	0	0	0	0	0							
一般財源		20,256	19,092	20,288	21,384	58,494								
財源計(C+D)		20,327	19,160	20,359	21,384	58,714								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	読書活動支援者の配置人員	目標値	(単位:人)	53.00	54.00	/
			実績値	(単位:人)	24.00	27.00		
		達成度(%)		45.3	50.0			
	目標値の積算方法	全小・中学校の1名の読書活動支援者を配置します。	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	831.42	792.00		
				一般財源(単位:千円)	828.46	792.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) の3が困難な場合を示す	①	活動内容	児童・生徒への読書指導や図書の収集、保存、整理等の補助など、学校図書館運営支援を行います。		目標	児童・生徒の読書への興味を促し、学校図書館の活用や、読書機会、読書量の増加を目標とします。		
	②	成果内容	支援者を配置することで、学校図書館開館日等が制限されず、いつでも利用が可能となり、また、支援者による児童・生徒への呼びかけ等により、学校図書館の利用が身近なものとなりつつあります。		達成状況	児童・生徒にとって学校図書館利用がより身近なものとなり、読書への意識向上にも繋がっています。		
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		平成27年度における支援者の配置は、小学校(一部の中学校を含む)で1人2校兼務、中学校で1人2校兼務となっていました。2校兼務の配置であれば1週間ごとに次の勤務となり、同じ学校への次の勤務まで1週間空いてしまうこととなります。そのため、読書活動支援が断続的な業務となり、業間や昼休み、放課後、調べ学習時における学校図書館の開館をはじめ、各校の学校図書館担当者等との連携や学校図書館利用の計画立案、児童・生徒との豊かな関わりの構築に支障をきたしているため、兼務校数の見直し等、事業の拡充が必要であると考え、平成28年度より小学校については1人1校勤務に拡充しました。今後は配置期間等を拡充させることにより、各校における読書活動支援の充実に努めてまいります。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	読書活動支援者配置事業	事業区分	その他
事務事業番号	00880				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	16	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	14	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	84	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00880
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>本事業は、各小中学校に読書活動支援者を配置し、学校図書館運営を支援することで、学校図書館の開館日等の拡充や、児童・生徒の十分な学校図書館の活用につながっています。また、支援者の学校図書館利用の働きかけにより、児童・生徒の豊かで幅広い読書活動を推進し、学校図書館教育の充実が図られているとともに、学校図書標準を100%達成したことで、児童・生徒の読書機会や読書量が一層増え、読書への興味を増すなどの成果を上げております。しかしながら、より一層の児童・生徒への関わりや学校図書館担当者との連携の充実を図るためには、兼務校数の見直しが必要であると考えます。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	中学校非常勤講師配置事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成20年度	改正内容	小学校第3学年と中学校第3学年を対象とし、常勤講師4名を任用していましたが、平成24年度から事業名を改め、中学校を対象に、授業のみを担当する非常勤講師2名を任用することとしました。											
(2)	直近の改正	平成24年度													
(3)	根拠法令等	中学校非常勤講師配置事業実施要領													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	中学校の生徒												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	基本的な生活習慣や学習習慣の確立、きめ細かな対応による学習意欲の向上、進路指導の充実、35人学級の完全実施												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	一人ひとりの個性を重視した「確かな学力」の育成、豊かな人間関係の構築、学校生活の充実													
(7)	事業概要	学習面、生徒指導面におけるきめ細かな対応及び進路指導の充実を図るため、中学校に35人学級を導入するにあたり、必要な教員を吹田市独自で配置します。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	7	中事業	1	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		2,929	2,812	2,936	2,781	2,972							
		人件費	職員数	人	0.20	0.30	0.20	0.20	0.20						
			総額(B)	千円	1,660	2,385	1,671	1,671	1,634						
		総事業費(A+B)		4,589	5,197	4,607	4,452	4,606							
		(内訳)	特定財源(C)		0	0	0	0	0						
			国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0							
		(内訳)	市負担(D)		4,589	5,196	4,607	4,452	4,606						
			地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			4,589	5,196	4,607	4,452	4,606								
財源計(C+D)		4,589	5,196	4,607	4,452	4,606									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	中学校非常勤講師の配置人員	目標値	(単位:人)	2.00	2.00	/
			実績値	(単位:人)	2.00	2.00		
		達成度(%)		100.0	100.0			
	目標値の積算方法	中学校に35人学級を導入するにあたり、必要な人員を配置します。	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	2,201.00	2,226.00		
				一般財源(単位:千円)	2,201.00	2,226.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が 困難 などで 場合 示 合 ず	①	活動内容	中学校に35人学級を導入し、きめ細かな指導の充実を図るため、非常勤講師を配置します。		目標	中学校に35人学級を導入するにあたり、必要な非常勤講師を配置していきます。		
	②	成果内容	1学級の人数が少なくなり、児童・生徒一人ひとりに関わることのできる時間が増え、きめ細かな指導が可能となります。		達成状況	きめ細かな対応ができることから、児童・生徒の理解の様子を掴みやすくなり、落ち着いた学校生活を送れるようになりました。		
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		これまでは国、府の制度を先行・補完するような事業として実施してきました。今後の国、府の動向から、小学校への教員派遣は見直しましたが、35人学級編制の教育的効果は高いことから、制度導入の遅延が見込まれる中学校に事業を継続する必要があると考えます。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	中学校非常勤講師配置事業	事業区分	その他
事務事業番号	00881				

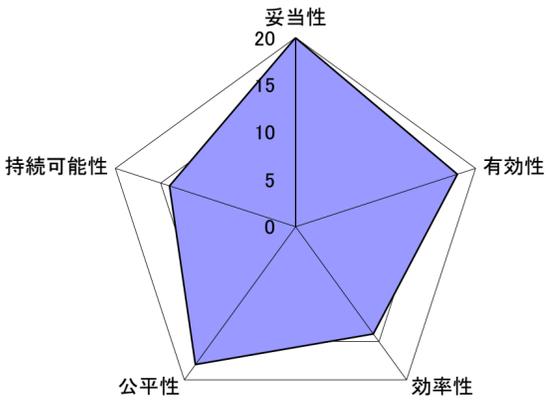
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	14	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 c. 他の事業・取組との連携は検討していない。(1点)	1	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	14	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	84	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00881
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	 <table border="1"> <caption>各視点からの評価結果 (Radar Chart Data)</caption> <thead> <tr> <th>視点</th> <th>評価点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>持続可能性</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>			視点	評価点数	妥当性	20	有効性	15	効率性	10	公平性	10	持続可能性	10
視点	評価点数														
妥当性	20														
有効性	15														
効率性	10														
公平性	10														
持続可能性	10														
(3)現状分析	<p>これまでは国、府の制度を先行・補完するような事業として実施してきた。今後の国、府の動向から、小学校への教員派遣を見直しましたが、35人学級編制の教育的効果は高いことから、制度導入の遅延が見込まれる中学校に事業を継続する必要があると考えている。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	小学校スタートアップ事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成23年度	改正 内容	なし											
(2) 直近の改正	なし													
(3) 根拠法令等	小学校スタートアップ事業実施要領													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	小学校第1学年の児童											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	学習理解の差異に応じた個別指導、授業中の安全管理の充実、不適応行動等を示す児童への個別対応の充実 小学校へのスムーズな移行を実現 学習面、生活面等の充実												
(7) 事業概要	幼稚園や保育所等から小学校への急激な学習・生活環境の変化の中でつまづきや戸惑いを見せたり、不適応行動をとり始めたりすることの多い小学校第1学年の児童に対して、「きめ細かな」指導を充実させ、スムーズな移行を図るとともに、虐待の兆候等を早期に発見、早期に対応することで問題解決につなげ、学習や生活をサポートするため、支援者の「スターター」を各校1名配置します。													
(8) H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	8	中事業	1	小事業	1
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		26,374	26,174	26,951	26,628	26,975							
	人件費	職員数	人	0.70	0.60	0.70	0.70							
		総額(B)	千円	5,810	4,769	5,847	5,847							
	総事業費(A+B)		32,184	30,943	32,798	32,475	32,694							
	(内訳)	特定財源(C)		0	0	0	0							
		国		0	0	0	0							
		府		0	0	0	0							
		その他		0	0	0	0							
	(内訳)	市負担(D)		32,184	30,943	32,798	32,475	32,694						
		地方債		0	0	0	0							
		その他		0	0	0	0							
一般財源			32,184	30,943	32,798	32,475	32,694							
財源計(C+D)		32,184	30,943	32,798	32,475	32,694								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	スターターの配置人数	目標値	(単位:人)	35.00	36.00	/
			実績値	(単位:人)	35.00	36.00		
		達成度(%)		100.0	100.0			
	目標値の積算方法	全小学校の第1学年に1名のスターターを配置します。	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	906.77	902.08		
				一般財源(単位:千円)	906.77	902.08		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) の3が困難な場合	①	活動内容	小学校第1学年における児童の学習指導・生活指導を補助し、虐待が疑われるような児童の早期発見・対応に寄与します。		目標	学習や生活のきめ細かな指導の充実、虐待の早期発見・対応を行います。		
	②	成果内容	担任と複数の目で、児童一人ひとりに行き届いた支援を図ることができます。		達成状況	落ち着いた学校生活を送れ、きめ細かな個別対応、良好な人間関係の構築を図ることができました。		
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		<p>小学校1年生の児童が就学に至るまでの生活や学習体験は、子どもを取り巻く生活環境の変化や価値観の多様化等により、多岐にわたっています。また、児童虐待は、子どもの心と身体に深い傷を残し、健やかな成長や人格の形成に重大な影響を与えます。</p> <p>そのような中で、豊かな社会性をはぐくみ、児童虐待等の早期発見の機会が多い学校現場には、一人でも多く、子どもに寄り添い、子どもを支援する人材が必要であることから、今後も本事業を継続する必要があると考えます。</p>					

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	00882	事業名	小学校スタートアップ事業	事業区分	その他

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 a. 活動指標や有効指標には、他市との比較も可能な、それぞれ別の定量的な指標設定をしている。(5点)	5	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	18	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	16	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 b. 滞納等に対して、適正な措置を講じているが、収納率には課題がある。(3点)	3	点
(5) 持続可能性 (20点)	14	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	86	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00882
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input checked="" type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>幼稚園や保育所等から就学し、小学校での急激な学習・生活環境の変化の中で、つまずきや戸惑いを見せることの多い小学校1年生に対して、「スターター」を4月の新学期から配置することで、学習面や生活指導面の補助を行いつつ、遅れがちな児童への個別指導による学力の向上等に寄与しています。特に、言動面で不安定な児童に寄り添った丁寧なサポートを実践しており、子どもたちの成長・発達の見守りや虐待等の早期発見など、一人でも多くの子どもに寄り添い、支援する人材が必要です。しかしながら、大規模校においては、一人の支援者では十分な対応ができないため、学校規模に応じた複数配置をする等、事業を拡大する必要があると考えます。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

全国207カ所の児童相談所(児相)が2014年度に対応した児童虐待の件数(速報値)が、前年度比1万5129件(20.4%)増の8万8931件に上り、1990年度の調査開始以来、24年連続で過去最多を更新しています。都道府県別にみると、大阪が1万3738件と最多で、相談件数が増加する中で、小学校第1学年に対しスターターを配置することは、虐待の早期発見、早期対応にもつながり、児童の安心安全な学校生活のサポートとなります。

事務事業評価調書

事務事業名	生徒指導推進事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	昭和58年度	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乗せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	13							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	公立小・中学校の児童・生徒、教職員、PTA、地域の青少年健全育成団体、吹田警察署等関係諸機関、生徒指導対策会議委員											
		結果 (どのような効果が得られるのか)	中学生が意見交換をすることで、望ましい道徳観・規範意識の醸成を図る機会とするとともに、学校・家庭・地域が一体となって青少年の健全育成を図り、温かい地域づくりの発展に寄与する意識を高揚させる機会とする。												
(7)	事業概要	市内18校の中学校の代表による意見交流会を行い、主張大会を実施し各校の代表による発表を行うとともに、大阪府生徒会サミットに参加した中学校が、府内中学校の生徒会の取組を市内全中学校で共有できるように報告を行っている。 各中学校においては、代表決定に至るまで、生徒会による取組、総合的な学習の時間等での発表等、独自に発展させている。 また、大会に向けての資料準備、生徒の指導、運営委員会の開催等を行い、円滑な大会運営を実施している。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	3	中事業	1	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		284	233	326	309	309							
		人件費	職員数	人	0.50	0.56	0.50	0.50	0.50						
			総額(B)	千円	4,150	4,451	4,176	4,176	4,085						
		総事業費(A+B)		4,434	4,684	4,502	4,485	4,394							
		(内訳)	特定財源(C)		0	0	0	0	0						
			国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		4,434	4,683	4,502	4,485	4,394							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			4,434	4,683	4,502	4,485	4,394								
財源計(C+D)		4,434	4,683	4,502	4,485	4,394									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 中学生の主張大会参加校数	目標値	(単位:校)	18.00	18.00	/
			実績値	(単位:校)	18.00	18.00	
			達成度(%)		100.0	100.0	
	目標値の積算方法 全中学校	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	227.44	249.17		
			一般財源(単位:千円)	227.44	249.17		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容 中学生の主張大会運営に関わる生徒数	目標値	(単位:人)	22.00	22.00	/
			実績値	(単位:人)	23.00	24.00	
			達成度(%)		104.5	109.1	
	目標値の積算方法 中学生の主張大会運営に関わる生徒数(司会3名、発表者各校1名、手話通訳1名、生徒会サミット報告1名の合計)	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	178.00	186.88		
			一般財源(単位:千円)	178.00	186.88		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が 困難な場合を示す	①	活動内容	市内18中学校の代表による意見交流会と各校による発表会等、代表決定までの独自の発展的取組			目標	中学生の道徳性の育成 学校・家庭・地域の青少年健全育成のための意識づくり
	②	成果内容	道徳性の育成により中学生がよりよい生き方を見出す。 学校・家庭・地域が、青少年問題解決に向け役割の再確認と協力体制を確立する			達成状況	18校全中学校において取組んでいる
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		中学生の生徒会代表が一堂に会し、お互いの活動についての交流及び共通のテーマについての情報交換や協議を行うとともに、大阪府生徒会サミットに参加した中学校が、その報告を行うことにより、生徒の自主的・主体的な姿勢を育むとともに、道徳的価値の自覚と人間としての生き方について考えを深める機会となっている。また、生徒会活動の充実に向けた取組や言語活動を充実し、コミュニケーション力、表現力等育成のための取組として大変有意義であり、目標通りの成果を上げている。大会運営に向けての諸経費を市として負担しているが、負担に見合う成果が上がっている。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	生徒指導推進事業	事業区分	その他
事務事業番号	00883				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	16	②事業の目的と受益者が一致していますか。 b. 事業の目的と受益者は概ね一致している。(3点)	3	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点
(3) 効率性 (20点)	18	③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 b. サービスの水準は高く、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	16	④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	20			
評価点合計 (100点満点)	88	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00883
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>毎年1月に市内18校の中学校の代表による意見交流の場として、中学生の主張大会を実施しており、代表による主張発表が行われている。</p> <p>各校においては、大会出場に向け、予選を設け発表の機会を設けるなど、生徒会の取り組み、総合的な学習の時間等の発表活動等に発展させ、望ましい道徳観・規範意識の醸成に寄与している。</p> <p>少年指導員、少年補導員、地域教育協議会、吹田市PTA協議会、青少年指導員会、吹田市青少年問題協議会、青少年対策委員会等、地域の方々及び保護者も大会に参加している。青少年問題に関する課題とその解決に向けて協調していくための方向性と役割を見いだすうえで重要な役割を担っている。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	英語教育推進事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	10年度	改正内容	平成10年度から実施していた「英語指導助手配置事業」と、平成18年度から実施していた「小学校英語活動推進事業」を事業統合した。											
(2)	直近の改正	23年度													
(3)	根拠法令等	吹田市外国人英語指導助手の服務に関する要項													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部		<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)		<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)									
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	16							
(6)	目的	対象(誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	全公立小学校児童・全公立中学校生徒												
		目標(どういう状態にしたいのか)	全公立小・中学校に、年間を通じて英語指導助手を配置し、外国語(英語)教育の充実を図る。												
	結果(どのような効果が得られるのか)	小学校の児童のコミュニケーションの能力の素地を養い、中学校の生徒の英語に関する4技能のうち、特に聞く・話す能力の向上とともに、国際的なコミュニケーション能力の育成を図ることができる。													
(7)	事業概要	外国語(英語)教育の充実を図るとともに、国際理解教育を推進するために、英語を母語とする様々な国籍の英語指導助手を市内小・中学校に配置する。													
(8)	H27事業別予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	3	中事業	2	小事業	1
(9)	事業費と財源の内訳	項目		平成26年度(2014年度)		平成27年度(2015年度)		平成28年度(2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		41,474	39,690	53,565	49,780	57,886							
		人件費	職員数	人	1.10	1.16	2.00	2.00	2.00						
			総額(B)	千円	9,130	9,219	16,704	16,704	16,340						
		総事業費(A+B)		50,604	48,909	70,269	66,484	74,226							
		特定財源(C)		46	47	65	0	111							
		(内訳)	国	0	0	0	0	0							
			府	0	0	0	0	0							
			その他	46	47	65	0	111							
		市負担(D)		50,558	48,862	70,204	66,484	74,115							
		(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
			その他	0	0	0	0	0							
一般財源	50,558		48,862	70,204	66,484	74,115									
財源計(C+D)		50,604	48,909	70,269	66,484	74,226									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input checked="" type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①	(株)ブレインパワー										
				②											
				③											
		<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	主な委託内容				派遣契約で5月～10月の期間、中学校に							
①															
②															
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	中学校英語指導助手派遣のべ日数	目標値	(単位:日)	1,836.00	1,764.00	1,782.00
			実績値	(単位:日)	1,757.00	1,728.00	/	
		達成度(%)			95.7	98.0		
	目標値の積算方法	年間派遣日数×中学校英語指導助手人数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		27.57		38.47
				一般財源(単位:千円)		27.57	38.47	
	(2) 成果指標	②	指標内容	小学校英語指導助手派遣のべ日数	目標値	(単位:日)	832.00	776.00
実績値				(単位:日)	832.00	776.00	/	
達成度(%)				100.0	100.0			
目標値の積算方法		年間派遣日数×小学校英語指導助手人数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		58.21		85.68
				一般財源(単位:千円)		58.21	85.68	
(3) 困難な場合		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	/	
	達成度(%)			0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00		0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00	/		
達成度(%)			0.0	0.0				
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00		0.00	
			一般財源(単位:千円)		0.00	0.00		
①	活動内容	英語を母語とする国籍の英語指導助手を小学校5・6年生と中学校に配置し、外国語(英語)教育の充実を図る。			目標	国際的なコミュニケーション能力の育成		
	②	成果内容	小学校では、英語でのコミュニケーション能力の素地を養い、中学校では、特に聞く・話す能力の向上を図れる。			達成状況	目標どおり達成している。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		小学校の外国語活動が教育課程に正式に組み込まれ、また今後小学校において英語が正式な教科になることを考えると、小学校での英語指導助手の必要性はますます高くなっていく状況である。本市では平成29年度には全小学校で1年生からの外国語活動を展開していく予定である。また、中学校においては4技能のうち、「聞く」、「話す」の技能の向上が喫緊の課題である。小学生にはコミュニケーション能力の素地を養い、中学生には、特に「聞く」・「話す」能力の向上を図るよう学習指導要領に示されているが、本市ではグローバル社会に生きていくためのコミュニケーション能力を身につけ、将来世界で活躍できる人材の育成を図るため、今後も事業の推進は必要である。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	英語教育推進事業	事業区分	その他
事務事業番号	00885				

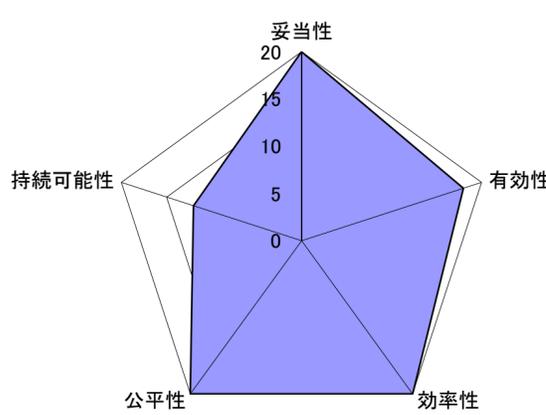
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	20	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	20	①サービスの対象範囲は適正ですか。 a. 不特定多数を対象としている。(5点)	5	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	12	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	90	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00885
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input checked="" type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>小学校1～4年生には年間10回程度、5・6年生には年回12回程度、中学校には5月から10月の間、英語指導助手を派遣している。平成29年度までに市内の全小学校が英語教育特例校を申請し、1年生から外国語活動を始めるため、英語指導助手の配置が課題である。学習指導要領に示される、小学校にはコミュニケーション能力の素地を養い、中学生には、特に聞く・話す能力の向上を図るとともに、将来吹田市から世界で活躍することができる人材が身につけておくべきグローバル社会におけるコミュニケーション能力の育成を図るべく、計画的に教育課程を実施しているが、英語指導助手の配置体制を検討する必要がある。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

英語教育改革実施計画(文部科学省)

- ・平成32年度(2020年)小学校高学年における英語の教科化および中学年における英語活動の実施
- ・中学校における「英語による授業」の実施

事務事業評価調書

事務事業名	英語コミュニケーション体験事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	25年度	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	16							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	本市小学校3年生から4年生												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	英語で外国の人と活動する中で、自然と英語に触れる機会を提供する。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	英語でのコミュニケーションを図ろうとする意欲を向上させる。													
(7)	事業概要	英語でのコミュニケーションに対する意欲を向上させる機会の一つとして、小学校3・4生を対象に英語だけの世界を楽しみながら英語に触れ、コミュニケーションをとる体験活動の「すいたえいごkids」を実施し、英語指導助手や英語を話せる活動支援者等を配置し、英語体験に参加した児童への支援を行う。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	3	中事業	3	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		2,909	2,833	739	661	908							
		人件費	職員数	人	1.10	1.14	0.80	0.80	0.10						
			総額(B)	千円	9,130	9,060	6,682	6,682	817						
		総事業費(A+B)		12,039	11,893	7,421	7,343	1,725							
		(内訳)	特定財源(C)		0	0	0	0	0						
			国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0							
		(内訳)	市負担(D)		12,039	11,893	7,421	7,343	1,725						
			地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			12,039	11,893	7,421	7,343	1,725								
財源計(C+D)		12,039	11,893	7,421	7,343	1,725									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目		項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容 「すいたえいごキッズ」参加人数	目標値	(単位:人)	480.00	538.00	/
			実績値	(単位:人)	480.00	538.00	
			達成度(%)		100.0	100.0	
	目標値の積算方法 活動4種類のべ132人×活動回数4回	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	24.11	13.65		
			一般財源(単位:千円)	24.11	13.65		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容 「すいたえいごキッズ」当日アンケート結果での肯定的感想(満足度)	目標値	(単位:人)	480.00	538.00	/
			実績値	(単位:人)	480.00	538.00	
			達成度(%)		100.0	100.0	
	目標値の積算方法 アンケート回答数のうち、肯定的な感想を持った人数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	24.11	13.65		
			一般財源(単位:千円)	24.11	13.65		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が困難な場合	①	活動内容				目標	
	②	成果内容				達成状況	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		本市においては、小学校高学年だけでなく、低学年から外国語活動の充実を図るため、平成29年度までに36小学校全校が教育課程特例校とし、小学校1年生からの外国語活動の実施を予定しており、平成26年度までに千里みらい夢学園を含む5校、平成27年度には11校、平成28年度には9校が新たに実施している。また、小学校3・4年生に英語に触れる機会を提供するため、平成25年度からすいたえいごkidsを開催し、英語に対する関心を高め、様々な国の人々とコミュニケーションを図る楽しさを味わわせることができた。今後もグローバル社会を生きぬくコミュニケーション能力の育成を図るために、この事業の継続は必要である。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	英語コミュニケーション体験事業	事業区分	その他
事務事業番号	00886				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 a. 活動指標や有効指標には、他市との比較も可能な、それぞれ別の定量的な指標設定をしている。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	20	②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	20	②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	16	②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
		評価点合計 (100点満点)	94	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))

所属名	指導室	事務事業番号	00886
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input checked="" type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>本市・企業が協働し、平成25年度から毎年、「すいたえいごkids2014」を実施できた。応募人数は募集人数を大きく上回り、改めて本事業への児童・保護者の関心やニーズの高さを知ることとなった。また、実施後の参加者アンケートにおいても平成25年度・26年度・27年度ともに、ほぼ100%の満足度を得る回答となっており、目標通り英語に楽しみながら触れる活動の機会を提供することができた。本市においては、小学校1年生から外国語活動を実施する教育課程特例校を平成23年度に2校で、平成26年度は5校で、平成27年度には11校、平成28年度は新たに9校で実施しており、平成29年度には全小学校で実施する予定である。今後ますます、児童や保護者が外国語である英語や英語指導助手との触れ合いの機会に対して関心が高まることから本事業の必要性は高まると考える。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

英語教育改革実施計画(文部科学省)
 ・平成32年度(2020年)小学校高学年における英語の教科化および中学年における英語活動の実施
 平成27年度より教育課程特例校における報償費AET講師関係は、「英語教育推進事業」に統合

事務事業評価調書

事務事業名	障がい児介助員配置事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	昭和56年度	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	障害者の権利に関する条約第二十四条 教育 2(c)個人に必要とされる合理的配慮が提供されること													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	15							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	重度・重複障がい児等の在籍する公立小・中学校												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	生活介助や安全確保にあたる。												
		結果 (どのような効果が得られるのか)	一人ひとりの障がいの状況に応じたきめ細かな指導。												
(7)	事業概要	重度・重複障がい児やその他様々な課題がある子どもたちがより安心・安全に学校生活が送れるよう、在籍する学校に障がい児介助員を配置し、その生活介助や安全確保にあたる。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	4	中事業	1	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		235,176	236,065	243,325	236,186	246,165							
		人件費	職員数	人	2.50	2.66	2.55	2.55	2.50						
			総額(B)	千円	20,750	21,140	21,298	21,298	20,425						
		総事業費(A+B)		255,926	257,205	264,623	257,484	266,590							
		特定財源(C)		932	912	947	0	934							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		932	912	947	0	934						
		市負担(D)		254,994	256,292	263,676	257,484	265,656							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
その他			0	0	0	0	0								
一般財源			254,994	256,292	263,676	257,484	265,656								
財源計(C+D)		255,926	257,204	264,623	257,484	266,590									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00	
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(3) が 困難な場合を示す		①	活動内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	
	達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
今後の方向性(実施計画)			<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
(4) 総合評価		評価の説明	現在、非常勤職員48名の障がい児介助員が小・中学校に配置されている。支援学級在籍者数は年々増加する中、アルバイト介助員(平成28年4月末で31名登録)を実状に応じて配置しているが、重度・多様化する教育的ニーズに十分に対応できていない状況である。				

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	00887	事業名	障がい児介助員配置事業	事業区分	その他

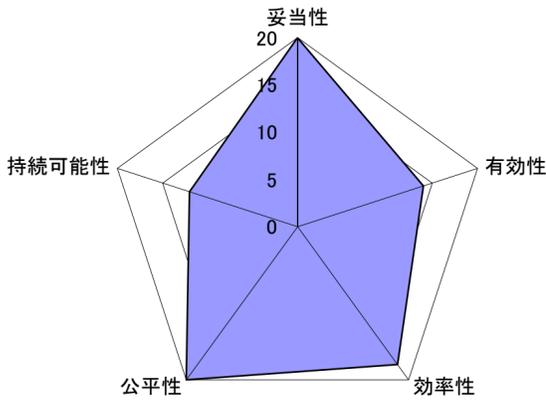
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	14	②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 b. 目標をやや下回るが、具体的な成果を上げている。(3点)	3	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 c. 単位当たりコストは高く、見直す必要がある。(1点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	18	②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 a. 不特定多数を対象としている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	20	②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 c. 事業費、市負担とも大幅に増大している。(1点)	3	点
(5) 持続可能性 (20点)	12	②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	3	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	3	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
		評価点合計 (100点満点)	84	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))

所属名	指導室	事務事業番号	00887
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>支援学級在籍児童・生徒の増加と、ひとり一人の教育的ニーズの多様化により、学校の実情に応じた介助員配置は十分ではない状況である。今後、各校の支援教育を充実させるためには、アルバイト介助員配置数を増やすなどの対応が必要である。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

中央教育審議会初等中等教育分科会(平成24年7月23日)
「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」
「合理的配慮」の充実を図るため、必要な財源を確保し、国、都道府県、市町村は、「基礎的環境整備」の充実を図っていくことが必要である。
平成28年4月1日「障がい者差別解消法」施行

事務事業評価調書

事務事業名	支援学級支援事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度		改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	障害者基本法(教育)第十六条(平成23年8月5日改正)学校施設の整備その他の環境の整備													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり											
(6)	目的	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他										
		対象 (誰を、何を)	範囲等 公立小・中学校の支援学級在籍児童・生徒等												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	公立小・中学校の支援学級に在籍している児童・生徒が安心して学校生活を送る。												
		結果 (どのような効果が得られるのか)	「ともに学び、ともに育つ」の理念に基づき、すべての人々が共に支え合って生きる社会を目指す。												
(7)	事業概要	<p>肢体不自由児・訓練の実施、階段昇降機の配置、就学指導等の支援学級在籍児童・生徒等の支援を図る。 市内肢体不自由センター一校である高野台小学校に在籍し、校区外から通学する児童について、車椅子対応のリフト付ワゴン車を運行する。</p>													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	4	中事業	2	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		10,354	11,839	11,581	10,625	12,300							
		人件費	職員数	人	0.50	0.66	0.80	0.80	0.80						
			総額(B)	千円	4,150	5,246	6,682	6,682	6,536						
		総事業費(A+B)		14,504	17,085	18,263	17,307	18,836							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		14,504	17,084	18,263	17,307	18,836							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			14,504	17,084	18,263	17,307	18,836								
財源計(C+D)		14,504	17,084	18,263	17,307	18,836									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他		内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容 肢体不自由児訓練士活用回数	目標値	(単位:回)	35.00	35.00	35.00	
			実績値	(単位:回)	35.00	35.00		
			達成度(%)		100.0	100.0		
	目標値の積算方法	年間活用回数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		451.83	494.49	
				一般財源(単位:千円)		451.83	494.49	
	②	指標内容 リフト付ワゴン車3台の運行時間 (平成27年度までは運行日数)	目標値	(単位:日(時間))	205.00	205.00	1,765.00	
			実績値	(単位:日(時間))	205.00	205.00		
			達成度(%)		100.0	100.0		
目標値の積算方法	年間の授業日数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		77.14	84.42		
			一般財源(単位:千円)		77.14	84.42		
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
			達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
			達成度(%)		0.0	0.0		
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)		0.00	0.00		
(3) が 困難な場合を示す	①	活動内容	就学指導、階段昇降機の安全点検・配置移動・使用講習会、肢体不自由訓練・診察の実施、年1回肢体不自由児センター校レントゲン受診、リフト付ワゴンによる通学、校外学習時のタクシー配車。			目標	児童・生徒の安心安全面の確保と学校生活の充実と、肢体不自由児の学習機会を保障する。	
	②	成果内容	吹田市立小・中学校の支援学級に在籍している児童・生徒が安心して学校生活を送ることができる。肢体不自由の児童・生徒の学習機会が保障される。			達成状況	必要に応じた支援を行っている。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		「ともに学び、ともに育つ」教育の充実のために、各関係機関と連携を図る中で丁寧な就学相談に努めている。就学にかかる教育支援懇談会では、有識者を招聘することで専門的な見地から就学支援を行っている。車いす等を使用している児童・生徒が在籍する学校については、階段昇降機を配置している。肢体不自由センター校である高野台小学校では、年間35回の理学療法士等による肢体不自由訓練を行っている。階段昇降機は、操作や移動に時間を要することが課題である。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	支援学級支援事業	事業区分	その他
事務事業番号	00888				

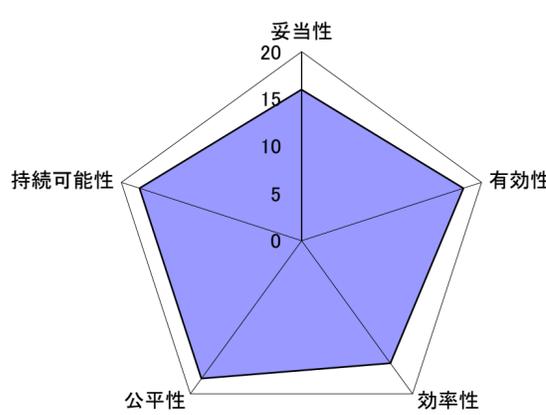
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。		
		a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。		
		b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。		
		a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。		
		b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。		
		a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。		
		a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。		
		a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。		
		a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。		
		b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。		
		b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。		
		a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。		
		a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。		
		b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	86	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00888
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>肢体不自由で車いす等を使用している児童・生徒の学校生活や学習を保障するため階段昇降機を配置している。年度初めに、安全確保のために階段昇降機の点検を行うとともに、新たに必要となった学校については使用講習会を行っている。</p> <p>校外学習時には、児童・生徒の実状に応じてタクシーを配車することにより学校教育を支援している。</p> <p>また、障がいのある児童・生徒のより良い就学のために、教育支援委員として有識者を招聘することで質の高い就学支援に努めている。</p> <p>肢体不自由センター校である高野台小学校においては、年1回の医師による診察や、教員等の資質向上を図るために理学療法士を派遣している。高野台小学校区外から通学する児童については、車椅子対応のリフト付きワゴン車の利用による通学を支援している。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

- ・平成26年度から「通学支援事業」を統合
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会(平成24年7月23日)
- 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)
- 「合理的配慮」の充実を図るため、必要な財源を確保し、国、都道府県、市町村は、「基礎的環境整備」の充実を図っていくことが必要である。
- ・平成28年4月1日「障がい者差別解消法」施行

事務事業評価調書

事務事業名	市立小中学校医療的ケア体制整備推進事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成18年度	改正 内容												
(2) 直近の改正														
(3) 根拠法令等	市町村医療的ケア体制整備推進事業補助金交付要綱													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり											
	節	1												
	細節	15												
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理 <input type="checkbox"/> 建設事業 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	公立小・中学校に在籍する医療的ケアの必要な児童・生徒											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	医療的ケアを必要とする児童・生徒が在籍する学校に看護師資格を有する介助員を配置し、安全な学校生活と学習活動を保障する。												
(7) 事業概要	医療的ケアを必要とする児童・生徒が在籍する学校に看護師資格を有する介助員を配置し、安全な学校生活と学習活動を保障する。													
(8) H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	4	中事業	3	小事業	1
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		26,221	23,832	30,234	21,273	30,981							
	人件費	職員数	人	0.52	0.68	0.80	0.80	0.80						
		総額(B)	千円	4,316	5,404	6,682	6,682	6,536						
	総事業費(A+B)		30,537	29,236	36,916	27,955	37,517							
	特定財源(C)		9,130	7,886	9,130	0	9,130							
	(内訳)	国	0	0	0	0	0							
		府	9,130	7,886	9,130	0	9,130							
		その他	0	0	0	0	0							
	市負担(D)		21,407	21,350	27,786	27,955	28,387							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	0	0	0	0	0							
一般財源		21,407	21,350	27,786	27,955	28,387								
財源計(C+D)		30,537	29,236	36,916	27,955	37,517								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他		内容												

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 看護師資格を有する介助員配置のべ人数 (府補助対象分)	目標値	(単位:人)	19.00	22.00	/
			実績値	(単位:人)	19.00	21.00	
		達成度(%)		100.0	95.5		
	目標値の積算方法	医療的ケアを必要とする児童・生徒数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	1,471.89	1,331.19	
				一般財源(単位:千円)	1,471.89	1,331.19	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)	0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(3) が困難な場合を示す	①	活動内容	医療的ケアを必要とする児童・生徒が在籍する学校に看護師資格を有する介助員を配置し、安全な学校生活と学習活動を保障する。		目標	すべての学校で、医療的ケアの必要な児童・生徒に対して、看護師資格を持つ介助員を配置する。	
	②	成果内容	医療的ケアを必要とする児童・生徒が地域の小中学校へ就学する機会を拡充し、保護者の来校による支援によらず、安全な学校生活や学習活動を保障する。		達成状況	概ね達成できているが、必要な時期に必要な数の看護師資格を持つ介助員の雇用が難しい。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		平成28年4月から障害者差別解消法が施行され、より一層、基礎的環境整備の必要性が高まっている。そのことに伴い、医療的ケアを必要とする児童・生徒に、安全な学校生活と教育活動の保障を行うため、今後とも看護師資格を有する介助員の配置は必要である。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	市立小中学校医療的ケア体制整備推進事業	事業区分	その他
事務事業番号	00889				

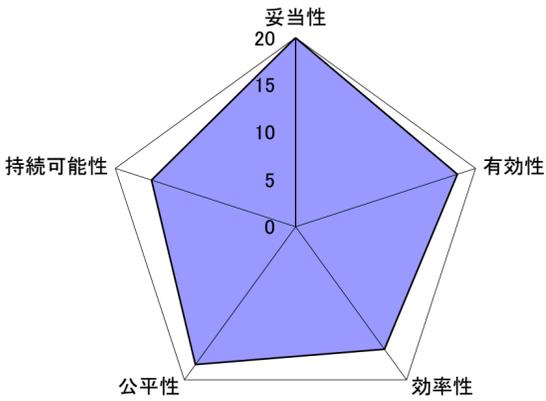
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	16	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 b. 事業費は増大したが、市負担はそれほど増加していない。(3点)	3	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 b. 事業費は増大するが、市負担は増大しない見込みである。(3点)	3	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
評価点合計 (100点満点)	88	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00889
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>医療的ケアを必要とする児童・生徒が地域の小・中学校へ就学する機会を拡大し、保護者が対応せずとも、安全な学校生活や学習活動を保障するため、対象児童・生徒が在籍する学校に看護師資格を有する介助員を配置している。</p> <p>現在、1校につき1名の看護師配置に対して府教委からの予算的補助はある。本市では、医療的ケアの必要な児童が同じ学校に複数在籍する学校があり、看護師1名では対応が困難なため、1名を市単費で追加配置している。府教委へも現状を報告し、改善を伝えているところである。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

平成28年4月1日 障害者差別解消法施行

事務事業評価調書

事務事業名	通訳者派遣事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度		改正内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	中国帰国子女等指導協力者(通訳者)派遣事業実施要項													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	16							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	帰国・外国人園児・児童・生徒 吹田市立公立小中学校および幼稚園に在籍する児童・生徒・園児の聴覚障害がある保護者												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	帰国・外国人園児・児童・生徒の学校・園における生活支援を行うと共に、日本語運用能力を高める指導を行う。聴覚障害がある保護者が、学校等の行事等において相互の意思疎通を図り学校教育への理解の増進に資する。												
		結果 (どのような効果が得られるのか)	帰国・外国人園児・児童・生徒の学校生活への円滑な適応を促進する。また当該保護者のニーズに対応し、学校等を支援していくことにより保護者との共通理解を図ることができ、学校教育への充実に繋がっている。												
(7)	事業概要	・帰国・外国人園児・児童・生徒が学校・園における生活に適応できるように支援を行うとともに、日本語適応能力を高めるため、日本語指導者(通訳者)を派遣する。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	5	中事業	1	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		1,470	1,507	1,200	1,194	1,545							
		人件費	職員数	人	0.10	0.16	0.10	0.10	0.10						
			総額(B)	千円	830	1,272	836	836	817						
		総事業費(A+B)		2,300	2,779	2,036	2,030	2,362							
		(内訳)	特定財源(C)		0	0	0	0	0						
			国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0							
		(内訳)	市負担(D)		2,300	2,779	2,036	2,030	2,362						
			地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			2,300	2,779	2,036	2,030	2,362								
財源計(C+D)		2,300	2,779	2,036	2,030	2,362									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
		<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①											
②															
③															
<input type="checkbox"/> その他		内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 通訳者派遣必要回数 (平成26年度は手話通訳者のみ)	目標値	(単位:回)	52.00	400.00	/
			実績値	(単位:回)	26.00	392.00	
			達成度(%)		50.0	98.0	
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	88.54	5.18		
			一般財源(単位:千円)	88.54	5.18		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が 困難な場合を示す	①	活動内容	日本語指導が必要な園児・児童・生徒に母語の通訳を派遣し、生活言語学習言語の習得の支援を行う。		目標	日本語指導が必要な園児・児童・生徒に通訳派遣を行う。	
	②	成果内容	学校生活に必要な生活言語・学習言語を習得する。当該保護者のニーズに対応し、保護者との意思疎通を図ることができ、学校教育の充実につながっている。		達成状況	生活言語・学習言語を習得するには一定の期間が必要であり、さらに充実が必要である。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		・グローバル化が進み、帰国・外国人園児・児童・生徒は増加傾向にあり、日本語が全く話せない状態や多様な国からの来日が増えている。保護者が日本語を話せないケースも多く、通訳者派遣のニーズも高い。転出入が多く、急な受入にも対応できるよう、ニーズに応じた予算の確保が必要である。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	通訳者派遣事業	事業区分	その他
事務事業番号	00890				

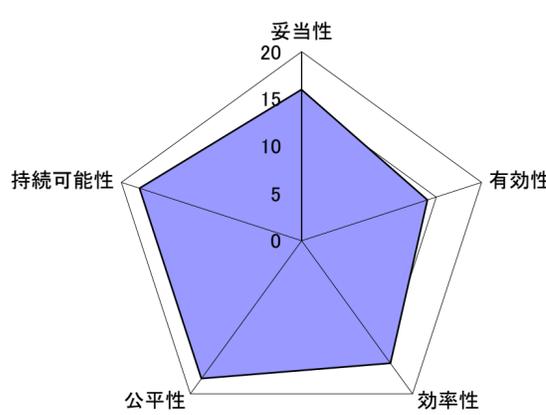
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点			
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点	
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点	
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点	
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点	
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点	
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点	
(2) 有効性 (20点)	14	③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点	
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 b. 目標をやや下回るが、具体的な成果を上げている。(3点)	3	点	
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点	
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点	
(3) 効率性 (20点)	16	③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点	
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点	
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点	
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点	
(4) 公平性 (20点)	18	③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点	
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点	
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点	
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点	
(5) 持続可能性 (20点)	18	③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点	
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点	
		評価点合計 (100点満点)	82	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))	

所属名	指導室	事務事業番号	00890
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>帰国・外国人園児・児童・生徒に対して、日本語指導者(通訳者)を派遣することは、当該園児・児童・生徒の日本語適応能力を高めるだけでなく、スムーズに園・学校生活に適応できる支援となっており有効である。また、聴覚障がいをもつ保護者が、その子どもが受けている学校教育について必要な情報を得たり、学校へ情報を伝えたりするために手話通訳は欠かすことができない有効な手段である。学習の用語や教育相談など、教育に関する知識を有する専門の手話通訳者を派遣することにより、保護者は、十分な情報を得られることができる。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

障害者差別解消法には「社会的障壁をとりのぞくための合理的配慮をすること。」とあり、今後要望が高くなる可能性がある。

事務事業評価調書

事務事業名	日本語適応教室事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成16年度	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	中国残留孤児などの円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立支援に関する法律「第11条」													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	16							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	帰国・外国人園児・児童・生徒												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	日本語適応教室「さくら広場」に日本語指導の支援者を配置して、日本語理解の不十分な園児・児童・生徒の支援を行う。												
(7)	事業概要	結果 (どのような効果が得られるのか)	新たな環境に置かれた、日本語がほとんど理解できない園児・児童・生徒が学校になじむための対応と日本語能力の定着及び母語保持。												
		帰国・外国人園児・児童・生徒に対して日本語適応教室を設置し、日本語指導、学校生活への対応指導等の充実に努め、学校教育への円滑な適応を促進するとともに、学習言語を習得するための支援を行う。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	5	中事業	2	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		440	363	440	442	482							
		人件費	職員数	人	0.20	0.26	0.20	0.00	0.20						
			総額(B)	千円	1,660	2,067	1,671	0	1,634						
		総事業費(A+B)		2,100	2,430	2,111	442	2,116							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		2,100	2,429	2,111	442	2,116							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			2,100	2,429	2,111	442	2,116								
財源計(C+D)		2,100	2,429	2,111	442	2,116									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 日本語適応教室の開設	目標値	(単位:回)	35.00	35.00	/
			実績値	(単位:回)	35.00	35.00	
			達成度(%)		100.0	100.0	
	目標値の積算方法 年間開設回数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	55.80	12.63		
			一般財源(単位:千円)	55.80	12.63		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容 平均利用率	目標値	(単位:%)	100.00	100.00	/
			実績値	(単位:%)	73.00	65.00	
			達成度(%)		73.0	65.0	
	目標値の積算方法 1回あたりの平均利用者/登録者	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	26.75	6.80		
			一般財源(単位:千円)	26.75	6.80		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が 困難な場合を示す	①	活動内容	年間35回の日本語適応教室を設定し、帰国・外国人園児・児童・生徒の母語保持・日本語指導に努める。		目標	日本語指導が必要な帰国・外国人園児・児童・生徒のニーズに応じた受け入れを可能とする。	
	②	成果内容	母語や母国の文化に誇りを持ち、生活言語・学習言語のよりスムーズな習得が可能となる。		達成状況	小学生には送迎が必要であり、中学生にはクラブ活動があるなどの理由から利用率は登録数の約半数である。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		日本語指導が必要な帰国・外国人園児・児童・生徒にとって、学校生活に慣れるための対応と母語の保持及び日本語の定着等のための支援は必要なものの、ニーズに即していない等、利用しにくい状況がある。今後、他の事業手法との検証も含め、事業の見直しを検討する必要がある。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	日本語適応教室事業	事業区分	その他
事務事業番号	00891				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	14	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 b. 市が関与すべき事業であるが、その範囲や担い手には民間委託など検討の余地がある。(3点)	3	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 b. 実施意義は今もある。(3点)	3	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	18	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	14	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 c. 受益者負担を求めておらず、検討する必要がある。(1点)	1	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	16	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	80	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00891
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	<table border="1"> <caption>各視点からの評価結果 (Radar Chart Data)</caption> <thead> <tr> <th>視点</th> <th>評価結果 (0-20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>持続可能性</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>			視点	評価結果 (0-20)	妥当性	15	有効性	10	効率性	10	公平性	5	持続可能性	10
視点	評価結果 (0-20)														
妥当性	15														
有効性	10														
効率性	10														
公平性	5														
持続可能性	10														
(3)現状分析	<p>帰国・外国人園児・児童・生徒に対して、年35回日本語適応教室「さくら広場」を設置し、母語保持につながる活動や日本語指導を行っている。小学生には保護者による送迎が必要であり、中学生にはクラブ活動があるなどの理由から利用率は登録数(平成27年度18名)の半数強である。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	学校問題解決支援事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成20年度	改正内容	なし											
(2) 直近の改正	なし													
(3) 根拠法令等	吹田市教育委員会事務局非常勤職員採用試験実施要領													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	22							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	公立小中学校(54校)の学校関係者、保護者及び地域住民等											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	学校と児童・生徒、保護者あるいは地域住民等の中で生じた困難な問題の早期解決を支援する。 苦情等の対応及び困難な問題の早期解決を図ることにより、児童・生徒の学校活動が確保され、また、保護者の学校に対する声に対応することで、保護者や地域から信頼される学校の構築に資することができる。												
(7) 事業概要	学校教育活動中の問題行動や事故等により、学校と家庭間で生じた困難な問題において、学識経験者による早期解決に向けた対応の指導・助言を行う。また、保護者、地域からの相談・苦情対応の初期対応も行き、学校と保護者・地域住民等との円滑な関係づくりを支援する。													
(8) H27事業別予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	5	中事業	3	小事業	1
(9) 事業費と財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		3,740	3,441	3,849	3,473	3,853							
	人件費	職員数	人	0.20	0.26	0.20	0.20	0.10						
		総額(B)	千円	1,660	2,067	1,671	1,671	817						
	総事業費(A+B)		5,400	5,508	5,520	5,144	4,670							
	特定財源(C)		16	15	16	0	16							
	(内訳)	国	0	0	0	0	0							
		府	0	0	0	0	0							
		その他	16	15	16	0	16							
	市負担(D)		5,384	5,493	5,504	5,144	4,654							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	0	0	0	0	0							
一般財源		5,384	5,493	5,504	5,144	4,654								
財源計(C+D)		5,400	5,508	5,520	5,144	4,670								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00	
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(3) の3が困難な場合を示す		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	
	達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
①	活動内容	教育活動中に生起する問題行動や事故等に対し、学校が問題解決を図るための取組や指導の中で、学校と保護者・地域等の間に生じる解決困難な課題に対して、早期解決・収拾に向けた助言を行う。			目標	学校と児童・生徒、保護者、地域等の間で生じた、容易に解決しない問題について、指導・助言することで早期解決を支援する。	
	成果内容	苦情等の対応及び調整困難な問題の解決を図ることにより、児童・生徒にとって安心安全な学校活動が確保され、保護者等の学校に対する声に対応することで、信頼された学校をつくりを推進できる。			達成状況	当事者同士の話し合い等では解決が困難な事案が生じた際に、適切な助言・支援がなされ、解決が至難と思われた事案が解消した。	
(4) 総合評価	今後の方向性 (実施計画)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 終期の設定					
	評価の説明	子どもたちに魅力ある教育活動を保障するために、学識経験者等が指導・助言を行い、早期解決・収拾を図ることが必要である。現時、学校問題解決支援員が、苦情等の対応及び調整困難な問題の早期解決を図ることにより、児童・生徒の学校生活の充実が図られてるところだが、多様な価値観が混在する中、学校と家庭間等で生じる困難な問題も後を絶たず、ニーズも多様化している。以上のことから、今後も本事業を継続させる必要がある。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	学校問題解決支援事業	事業区分	その他
事務事業番号	00892				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	16	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 b. 目標をやや下回るが、具体的な成果を上げている。(3点)	3	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	20	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
評価点合計 (100点満点)	90	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00892
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input checked="" type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>学校の教育活動では、問題行動や事故等により、学校と家庭間等で生じる困難な事象が生じることが多々あり、学識経験者による早期解決に向けた対応の指導・助言を行っている。 市民のニーズも多岐にわたり、多様な価値観で学校に要求されることも生じており、指導主事、関係機関と学識経験者が連携をとり対応しているが、早期、円満解決の視点において、さらに成果を上げる必要が求められる。保護者、地域からの相談・苦情への初期対応も行うなか、学校と保護者・地域住民等との円滑な関係づくりを支援することにより、保護者等の学校への信頼回復を図るものである。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	子どもサポートチーム事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成20年度	改正 内容	なし											
(2) 直近の改正	なし													
(3) 根拠法令等	なし													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	公立小中学校の児童・生徒と保護者および学校関係者											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	いじめ・不登校、児童虐待の個別課題を有する児童・生徒への個別支援を行い、困難な事例等の未然防止・早期解決を図るために、各校の生徒指導体制を構築するとともに、校内研修等を行い、より生徒指導の充実を図る。 スクールソーシャルワーカーを含む子どもサポートチームが、組織的な対応により、第三者的立場で児童・生徒に接することや、学校関係者とのアセスメント、保護者等との面談を実施し、未然防止・早期解決に繋げる。												
(7) 事業概要	子ども支援のためのスクールソーシャルワーカーを含むサポートチームを編成し、いじめ・不登校・児童虐待等、個別課題を有する児童・生徒へのケア及び未然防止に努め、専門的な見地からのアドバイスを受けながら、各学校の支援体制の実効性・機能性を分析し、校内研修等の充実により、児童・生徒、保護者、学校等を支援する。													
(8) H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	5	中事業	4	小事業	1
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		17,785	18,065	18,102	18,074	30,479							
	人件費	職員数	人	0.30	0.36	0.30	0.30	1.50						
		総額(B)	千円	2,490	2,861	2,506	2,506	12,255						
	総事業費(A+B)		20,275	20,926	20,608	20,580	42,734							
	特定財源(C)		0	0	0	0	0							
	(内訳)	国		0	0	0	0	0						
		府		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
	市負担(D)		20,275	20,926	20,608	20,580	42,734							
	(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
一般財源		20,275	20,926	20,608	20,580	42,734								
財源計(C+D)		20,275	20,926	20,608	20,580	42,734								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	SSWの配置	目標値	(単位:人)	53.00	54.00	54.00
			実績値	(単位:人)	53.00	54.00	/	
		達成度(%)		100.0	100.0			
	目標値の積算方法	全小・中学校×1名	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		385.85		381.11
				一般財源(単位:千円)		385.85	381.11	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00	/		
達成度(%)			0.0	0.0				
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)			0.00	0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
(2) 成果指標		①	指標内容	いじめ事案の解消率	目標値	(単位:%)	100.00	100.00
	実績値			(単位:%)	96.40	0.00	/	
	達成度(%)		96.4	0.0				
	目標値の積算方法	いじめが生起してから解決に至ったケース	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		212.14		0.00
				一般財源(単位:千円)		212.14	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00	/		
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
	一般財源(単位:千円)				0.00	0.00		
(3) が 困難な場合を示す	①	活動内容	個別課題を有する児童・生徒への個別支援を行い、困難な事例等の未然防止・早期解決を図るために、各校の支援体制を構築するとともに、校内研修等を行い、より生徒指導の充実を図る。			目標	いじめ・不登校、児童虐待の未然防止・早期解決	
	②	成果内容	スクールソーシャルワーカーを中学校ブロックへ配置したことで、学校関係者とのアセスメント、保護者等との面談を実施することで、未然防止や早期解決等に繋がっている。			達成状況	相談事例への迅速な対応に繋がっている。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		いじめ・不登校、児童虐待の個別課題を有する児童・生徒の人数やケースは増える一方であり、内容においても学校だけでは対応が困難な事例が多くなっている。そのような中では、校内の支援体制の構築および子どもサポートチームのスクールソーシャルワーカー等が、福祉的な視点をもった第三者的立場で児童・生徒に接することや、学校関係者とのアセスメント、保護者等との面談を実施することに加えて、活用に関する研修をさらに充実させる必要がある。以上のことから、諸問題の未然防止や早期解決等を図るためにも本事業の継続が必要である。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	子どもサポートチーム事業	事業区分	その他
事務事業番号	00893				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	16	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 b. 目標を下回る進捗状況である。(3点)	3	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	20	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	10	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 c. 事業費、市負担とも大幅に増大している。(1点)	1	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 c. 事業費、市負担とも増大し、それに見合う財源の確保も見込めない。(1点)	1	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	84	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00893
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

有効性についての設問項目③「事業は目標どおりに進捗しているか」については、家庭の課題を抱えながらも、学校生活を頑張っている子どもたちが増えている中、各学校でのスクールソーシャルワーカーへのニーズは高まっている。しかしながら、現状の配置では各学校での活動時間が短すぎて、すべての学校支援に十分とは言えない。また、細やかな対応という点では、目標を達しているとは言えない状況である。したがって、目標を下回る進捗状況である(3点)とした。
 効率性について、設問項目の②「迅速なサービスの提供に努めていますか」については、現在の取組をさらに効果あるものにするために時間数の増加等についても検討する必要がある。

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input checked="" type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>全中学校区に配置しているスクールソーシャルワーカーが、困難な事例等の未然防止・早期解決を図るために、校内のコア会議等に参加し、支援方法の検討している。また、第三者的立場で児童・生徒に接したり、保護者等との面談、支援を行うことで、虐待の未然防止や早期解決等に繋げている。また、早期解決のため、子どもの生活基盤である家庭環境の改善を図るなど、福祉的視点で関係機関との連携を行う。昨今、児童・生徒を守り、心身の健全な育成のために学校や家庭のニーズも増加しており、きめ細かな対応、支援には物理的に難しい現状があるため、スクールソーシャルワーカーの配置時間については拡充する必要がある。平成28年度よりスクールソーシャルワーカーサポーターを活用し、よりきめ細かな対応、支援を行っており、学校や家庭のニーズに応えているところであるが、ニーズが多く更なる拡充が必要である。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

国
 ・事業虐待防止法
 ・平成19年度「問題を抱える子ども等の自立支援事業」
 ・平成27年度連続して欠席し連絡が取れない児童生徒や学校外の集団との関わりの中で被害に遭うおそれがある児童生徒の安全確保に向けた取組について
 ・平成27年4月 生活困窮者支援法
 府 平成17年から 大阪府SSW配置事業

事務事業評価調書

事務事業名	部活動活性化支援事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成7年度	改正内容	平成7年度から実施していた「中学校部活動指導者派遣事業」と「中学校運動部活動活性化事業」を事業統合した。											
(2)	直近の改正	平成23年度													
(3)	根拠法令等														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	公立中学校												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	中学校における体育・スポーツ・文化振興のため、種目別拠点校・合同部活動のシステムを実施するとともに、専門的な技術指導力を備えた部活動指導者・大会審判員を派遣する。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	派遣校の生徒が適切な指導を受け、部活動の充実・発展が図られるとともに、審判員の派遣により公正な競技会が行われる。													
(7)	事業概要	全中学校を対象に、専門的な技術指導力を備えた適切な指導者を必要とする運動部・文化部を有する学校に対して、年間55回、1回2時間程度の部活動指導者を派遣する。また、公正な競技会を実施するため、専門的な知識を持った審判員を派遣する。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	5	中事業	5	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		6,358	6,534	6,378	6,149	6,720							
		人件費	職員数	人	0.30	0.36	0.30	0.30	0.20						
			総額(B)	千円	2,490	2,861	2,506	2,506	1,634						
		総事業費(A+B)		8,848	9,395	8,884	8,655	8,354							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		8,848	9,395	8,884	8,655	8,354							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			8,848	9,395	8,884	8,655	8,354								
財源計(C+D)		8,848	9,395	8,884	8,655	8,354									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 部活動指導者等・大会審判員派遣回数	目標値	(単位:回)	2,040.00	2,200.00	2,200.00
			実績値	(単位:回)	2,123.00	1,988.00	
		達成度(%)		104.1	90.4		
	目標値の積算方法	部活動指導者等及び大会審判員派遣回数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		4.20	4.35
				一般財源(単位:千円)		4.20	4.35
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00
実績値				(単位:)	0.00	0.00	
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00
(3) が困難な場合		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	
	達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
			一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
①	活動内容	専門的な技術指導力を備えた適切な指導者を必要とする運動部・文化部を有する中学校に対して、部活動指導者や専門的な知識を持った審判員を派遣する。			目標	中学校に対して、年間55回、1回2時間程度の部活動指導者や専門的な知識を持った審判員を派遣する。	
	②	成果内容	部活動指導者や専門的な知識を持った審判員を派遣することにより、生徒に部活動や大会に参加する機会を与える。			達成状況	部活指導者や審判員の派遣回数では、部活動活性の達成状況を図ることは難しい。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		本市においては、中学校部活動入部率が昨年度は83.0%となっており、本事業も含め部活動の充実、活性化する取組を積極的に推進している。部活動により体得した経験等は、本市の子どもの将来にわたっての貴重な財産となっている、今後も部活動を活性化し、充実・推進を図るのに必要な事業である。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	部活動活性化支援事業	事業区分	その他
事務事業番号	00894				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	20	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 a. 活動指標や有効指標には、他市との比較も可能な、それぞれ別の定量的な指標設定をしている。(5点)	5	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	18	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	16	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 b. サービスの水準は高く、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	16	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
評価点合計 (100点満点)	88	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00894
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>部活動は、生徒にスポーツや文化および科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感・連帯感の滋養等に資するものである。部活動における専門的な技術指導力を備えた適切な指導者を派遣し、また大会開催時に審判員を派遣することにより、部活動の充実・推進を図っている。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	放課後学習支援事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	24	改正内容						
(2)	直近の改正								
(3)	根拠法令等								
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)					
		一部にチェックした場合はその説明							
(5)	総合計画の体系	章 4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節 1	細節 12				
(6)	目的	対象(誰を、何を)	区分 <input type="checkbox"/> 内部管理 <input type="checkbox"/> 建設事業 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
		範囲等	公立小・中学校の児童・生徒						
		目標(どういう状態にしたいのか)	1校あたり3名程度の学習支援者を配置し、該当校の放課後学習に対して概ね週1回の学習支援を実施する。						
	結果(どのような効果が得られるのか)	児童・生徒の学習意欲と自学自習力が向上する。							
(7)	事業概要	大学生や教職OB等を学習支援者として放課後学習に配置することで、学校の学習支援体制を充実させ、児童・生徒の自学自習力と学習意欲の向上を図る。							
(8)	H27事業別予算コード	会計 1	款 10	項 1	目 3	大事業 5	中事業 6	小事業 1	
(9)	事業費と財源の内訳	項目		平成26年度(2014年度)		平成27年度(2015年度)		平成28年度(2016年度)	
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)	
		事業費(A)		658	207	310	201	276	
		人件費	職員数	人	0.10	0.16	0.10	0.10	0.10
			総額(B)	千円	830	1,272	836	836	817
		総事業費(A+B)		1,488	1,479	1,146	1,037	1,093	
		特定財源(C)		0	0	0	0	0	
		(内訳)	国	0	0	0	0	0	
			府	0	0	0	0	0	
			その他	0	0	0	0	0	
		市負担(D)		1,488	1,479	1,146	1,037	1,093	
		(内訳)	地方債	0	0	0	0	0	
			その他	0	0	0	0	0	
一般財源	1,488		1,479	1,146	1,037	1,093			
財源計(C+D)		1,488	1,479	1,146	1,037	1,093			
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施							
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①					
				②					
				③					
		主な委託内容							
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①							
		②							
		③							
<input type="checkbox"/> その他	内容								

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 学習支援登録者による放課後学習実施回数	目標値	(単位:回)	420.00	420.00	/
			実績値	(単位:回)	362.00	371.00	
		達成度(%)		86.2	88.3		
	目標値の積算方法 小・中学校12校×年間35週×週1回	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	2.77	2.80		
			一般財源(単位:千円)	2.77	2.80		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) の3が困難な場合	①	活動内容	対象校の放課後において、児童・生徒の学習を支援するために、学生や教職OBを学習支援者として設置する。		目標	対象校において、概ね週1回、学習支援者が児童・生徒の学習支援をする。	
	②	成果内容	児童・生徒の学習意欲及び自学自習力を育むことができる。		達成状況	児童・生徒の学習意欲と自学自習力の向上につながっている。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		児童・生徒は、分からないところを丁寧に教えてもらうことで、少しずつ理解できる部分が増え、学力向上につながっていると同時に、そのことが「やればできる」という自己肯定感につながっている。また、保護者からの肯定的な意見も多く、学習意欲の醸成や学習習慣の定着に効果があると考えられる。児童・生徒の学力向上を支える取組として、本事業を継続する。				

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	00895	事業名	放課後学習支援事業	事業区分	その他

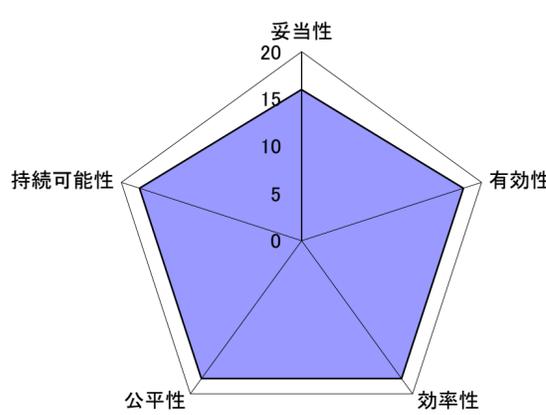
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。		
		b. 市が関与すべき事業であるが、その範囲や担い手には民間委託など検討の余地がある。(3点)	3	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。		
		a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。		
		a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。		
		b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。		
		a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。		
		a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	18	④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。		
		a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。		
		b. 単位当たりコストは概ね適正であるが、改善の余地がある。(3点)	3	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。		
		a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	18	③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。		
		a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。		
		a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。		
		b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	②サービスの水準は適正ですか。		
		a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。		
		a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。		
		a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。		
		b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	88	④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。		
		a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
		← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00895
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>平成27年度は、対象校(小学校9校、中学校3校)に学習支援者を概ね2名配置し、週に1～2回の放課後学習を実施することができた。また、学校独自の取組も含めて児童生徒の学習意欲や自学自習力の向上に寄与している。</p> <p>しかし、学習支援者の確保が難しく、放課後学習実施日に配置できないこともあり、今後は、各大学との連携を密にしてい中で児童生徒学習支援者の確保が必要である。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	小学校配慮を要する児童に係る空調設備整備事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成13年度	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	学校教育法75条(昭和23年3月31日法律第26号)													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乗せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	21							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input checked="" type="checkbox"/> 建設事業	<input type="checkbox"/> その他									
		範囲等	公立小学校の支援学級、通級指導教室に在籍する児童												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	体温調節の困難な病虚弱児童や静かな環境で言葉の機能訓練等の必要な児童の学習や活動が効果的に行われる。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	児童一人ひとりの状況や発達に応じた適切な教育を行い、すべての児童がともに学び、ともに育つ教育を推進することができる。													
(7)	事業概要	支援学級、通級指導教室において、体温調節の困難な病虚弱児童や静かな環境で言葉の機能訓練等の必要な児童の学習や活動が効果的に行われるように、順次エアコンを設置する。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	2	目	1	大事業	3	中事業	4	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		1,440	14,429	3,549	3,549	0							
		人件費	職員数	人	0.00	0.02	0.10	0.10	0.00						
			総額(B)	千円	0	159	836	836	0						
		総事業費(A+B)		1,440	14,588	4,385	4,385	0							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		1,440	14,588	4,385	4,385	0							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
その他			0	0	0	0	0								
一般財源			1,440	14,588	4,385	4,385	0								
財源計(C+D)		1,440	14,588	4,385	4,385	0									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
主な委託内容															
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他		内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	支援学級、通級指導教室へのエアコン設置校数	目標値	(単位:校)	5.00	4.00	0.00
			実績値	(単位:校)	5.00	4.00		
		達成度(%)		100.0	100.0			
	目標値の積算方法	全教室設置に向けての年次計画の中で設置	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		2,885.60	1,096.25	
				一般財源(単位:千円)		2,885.60	1,096.25	
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0				
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
(3) が困難な場合		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00		
	達成度(%)		0.0	0.0				
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
	(4) 総合評価	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0				
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
①		活動内容	支援学級、通級指導教室において、体温調節の困難な病虚弱児童や静かな環境で言葉の機能訓練等の必要な児童の学習や活動が効果的に行われるよう順次エアコンを設置する。	目標	障がいのある児童の安全で充実した学校生活を保障する。			
②	成果内容	体温調節の困難な病虚弱児童や、計画的な機能訓練が必要な児童の学習や活動を、適切な環境のもと効果的に行われる。	達成状況	平成27年度中に、すべての支援学級に空調設備を完了する予定である。				
今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 終期の設定						
評価の説明		支援学級、通級指導教室では、体温調節のできない病虚弱生徒や静かな環境で言葉や情緒の機能訓練等の必要な児童の学習や活動が効果的に行われるように、エアコン設置による環境整備を実施してきた。今後も障がいの重度化・多様化、在籍数の増加が予想されるため、引き続き実情に応じた環境整備が必要である。						

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	小学校配慮を要する児童に係る空調設備整備事業	事業区分	その他
事務事業番号	00896				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	18	②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 c. 他の事業・取組との連携は検討していない。(1点)	1	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
		評価点合計 (100点満点)	90	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))

所属名	指導室	事務事業番号	00896
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>体温調節のできない病弱・虚弱であったり、静かな環境で言葉や情緒安定等の機能訓練等、個別の学習課題や活動を行うため、一昨年度までに支援学級の1教室ずつに設置を進めてきた。 障がいの重度化・多様化、在籍数の増加が予想されるため、効果的で充実した学習活動等を行うために、普通教室へのエアコン設置完了時期に合わせて、全ての支援学級や通級指導教室へのエアコン設置による環境整備を実施してきた。今後も障がいの重度化や・多様化・在籍数の増加が予想されるため、引き続き実情に応じた環境整備が必要である。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	小学校学校案内作成事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成15年度	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	「わくわくスタート」事業実施要領													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	公立小学校入学者												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	公立小学校に入学する幼児や保護者に対し、学校ごとに作成した学校案内を配付する。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	幼児や保護者が、新しい生活への安心感や期待感を持ち、小学校生活の円滑なスタートが図れる。													
(7)	事業概要	小学校入学当初から学校生活や学習活動を円滑に開始(スタート)することができるようにするため、就学前幼児の保護者を対象に、各学校ごとの特色を盛り込んだ学校案内を作成・配付し、ガイダンスを行う。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	2	目	1	大事業	5	中事業	1	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		559	594	559	583	612							
		人件費	職員数	人	0.01	0.07	0.10	0.10	0.10						
			総額(B)	千円	83	557	836	836	817						
		総事業費(A+B)		642	1,151	1,395	1,419	1,429							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		642	1,150	1,395	1,419	1,429							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			642	1,150	1,395	1,419	1,429								
財源計(C+D)		642	1,150	1,395	1,419	1,429									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00	
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(3) の3が困難な場合		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	
	達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
①	活動内容	小学校入学当初から学校生活や学習活動を円滑に開始することできるようにするため、就学前幼児の保護者を対象に、各学校ごとの特色を盛り込んだ学校案内を作成・配付し、ガイダンスを行う。			目標	幼児や保護者が、新しい生活への安心感や期待感を持ち、小学校生活の円滑なスタートが図れる。	
		②	成果内容	小学校生活のスムーズなスタートが図られている。			達成状況
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)			<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止
	評価の説明		小学校入学当初から、学校生活や学習活動をスムーズに行うために学校ごとに作成した学校案内を活用し、保護者への配付やガイダンスを行うことで、新しい環境への円滑なスタートに繋がっている。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	小学校学校案内作成事業	事業区分	その他
事務事業番号	00897				

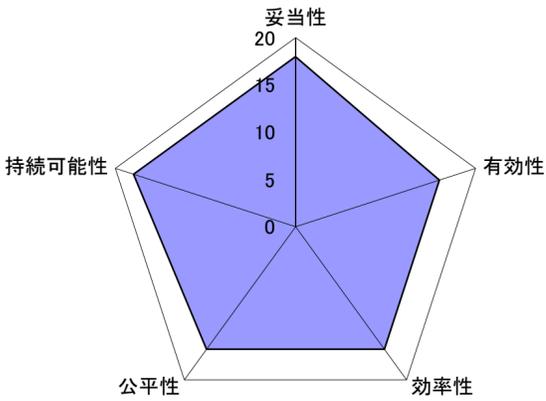
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	16	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 b. 事業の目的と受益者は概ね一致している。(3点)	3	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。 b. 単位当たりコストは概ね適正であるが、改善の余地がある。(3点)	3	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	16	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 b. サービスの水準は高く、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
評価点合計 (100点満点)	84	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00897
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>市立小学校に入学する幼児や保護者に対し、新しい環境に対する不安感をとり除き、安心感や期待感を抱くことができるよう、入学予定校の学校案内を配付している。 各小学校において、就学前幼児の保護者を対象に入学説明会等で活用しており、小学校生活へのスムーズなスタートに寄与している。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	中学校副読本作成事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	10	改正内容					
(2)	直近の改正							
(3)	根拠法令等							
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)				
		一部にチェックした場合はその説明						
(5)	総合計画の体系	章 4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節 1	細節 13			
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分 <input type="checkbox"/> 内部管理 <input type="checkbox"/> 建設事業 <input checked="" type="checkbox"/> その他	範囲等 公立中学校1年生				
		目標 (どういう状態にしたいのか)	中学校1年生に「道徳の時間」等の教材として、道徳教育副読本を配付し、道徳教育の充実を図る。					
		結果 (どのような効果が得られるのか)	道徳副読本を活用し、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことができる。					
(7)	事業概要	学習指導要領に示される指導内容項目を計画的発展的に取り扱い、また吹田の子どもの実態に即した題材、内容等を整理した道徳教育副読本を配付し、「道徳の時間」及び道徳性を培う教育活動において活用する。 道徳的価値の補充・深化・統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深め道徳的实践力を育成することに寄与する。						
(8)	H27事業別 予算コード	会計 1	款 10	項 3	目 1	大事業 4	中事業 1	小事業 1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)
		事業費(A)		782	583	742	596	0
		人件費	職員数 人	0.10	0.16	0.10	0.10	0.00
			総額(B) 千円	830	1,272	836	836	0
		総事業費(A+B)		1,612	1,855	1,578	1,432	0
		特定財源(C)		0	0	0	0	0
		(内訳)	国	0	0	0	0	0
			府	0	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0	0
		市負担(D)		1,612	1,855	1,578	1,432	0
		(内訳)	地方債	0	0	0	0	0
その他	0		0	0	0	0		
一般財源	1,612		1,855	1,578	1,432	0		
財源計(C+D)		1,612	1,855	1,578	1,432	0		
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施						
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①				
				②				
				③				
		主な委託内容						
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①						
		②						
		③						
<input type="checkbox"/> その他	内容							

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が困難な場合	①	活動内容	副読本を活用することにより道徳の時間の授業の質を一定の水準に高め、学習を円滑に進める。			目標	全ての対象生徒が活用する。
	②	成果内容	副読本を活用することにより、道徳性を育てる効果を発揮している。			達成状況	生徒が活用しやすく学びが深まる学習活動ができている。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		現在、使用している副読本は、吹田の子どもを育む道徳的価値を整理し編集されている。平成31年度から道徳の教科化により教科書が採択され、また、平成29年度中に学校教育情報通信ネットワークの再構築が予定されているため、本副読本を電子データ化し適宜教材として活用できるよう整備する等の検討を行う。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	中学校副読本作成事業	事業区分	その他
事務事業番号	00898				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 b. 実施意義は今もある。(3点)	3	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	20	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 a. 活動指標や有効指標には、他市との比較も可能な、それぞれ別の定量的な指標設定をしている。(5点)	5	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	18	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	16	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	88	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00898
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>現在、使用している副読本は、吹田の子どもを育む道徳的価値を整理し編集されている。 今後、道徳の教科化により教科書が採択されることから、本副読本を電子データ化し適宜教材として活用できるように整備する等の検討が必要である。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	中学校学校案内・生徒手帳作成事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	不明	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	公立中学校の生徒												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	生徒一人ひとりに、学校生活のあり方等を平素から自覚させる。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	平素から、生徒に学校生活のあり方等を理解させるとともに、学校と家庭との連絡・連携を図ることができる。													
(7)	事業概要	生徒一人ひとりに学校の教育方針を知らしめ、中学校生活のあり方や心得を平素から自覚させるとともに、当該中学校生であることを証明し、諸届け等家庭と学校との連絡に利用するため、生徒手帳を作成する。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	3	目	1	大事業	5	中事業	1	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		1,604	2,002	1,583	2,138	2,060							
		人件費	職員数	人	0.01	0.07	0.10	0.10	0.10						
			総額(B)	千円	83	557	836	836	817						
		総事業費(A+B)		1,687	2,559	2,419	2,974	2,877							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		1,687	2,558	2,419	2,974	2,877							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			1,687	2,558	2,419	2,974	2,877								
財源計(C+D)		1,687	2,558	2,419	2,974	2,877									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容 生徒手帳配付学校数	目標値	(単位:校)	18.00	18.00	18.00	
			実績値	(単位:校)	18.00	18.00		
			達成度(%)		100.0	100.0		
	目標値の積算方法	全中学校	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		115.67	165.22	
				一般財源(単位:千円)		115.67	165.22	
	②	指標内容		目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値				(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)				0.0	0.0			
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
(2) 成果指標		①	指標内容 生徒手帳配付率	目標値	(単位:%)	100.00	100.00	100.00
	実績値			(単位:%)	100.00	100.00		
	達成度(%)			100.0	100.0			
	目標値の積算方法	配布数/生徒数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		20.82	29.74	
				一般財源(単位:千円)		20.82	29.74	
	②	指標内容		目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値				(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)				0.0	0.0			
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
	一般財源(単位:千円)				0.00	0.00		
(3) が 困難 な 場合 示 合 す	①	活動内容	生徒手帳を作成し、公立中学校の生徒に配付する。			目標	生徒一人ひとりに、学校生活のあり方等を普段から自覚を持たせる。	
	②	成果内容	生徒一人ひとりに在籍する学校の教育方針を知らしめ、中学校生活のあり方や心得を普段から自覚させる。中学生である証明や諸届け等家庭と学校との連絡等に活用する。			達成状況	学校生活のあり方等の自覚させることに活用できている。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		各学校が示す「中学生はどうあるべきか」「目指す人間像」は、本市の子どもに求める姿勢でもある。子どもの規律ある生活習慣を身につけさせることは、大切であり、生徒手帳を配付し、中学生の生活習慣や授業規律の心得を普段から自覚を持たせることに活用している。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	中学校学校案内・生徒手帳作成事業	事業区分	その他
事務事業番号	00899				

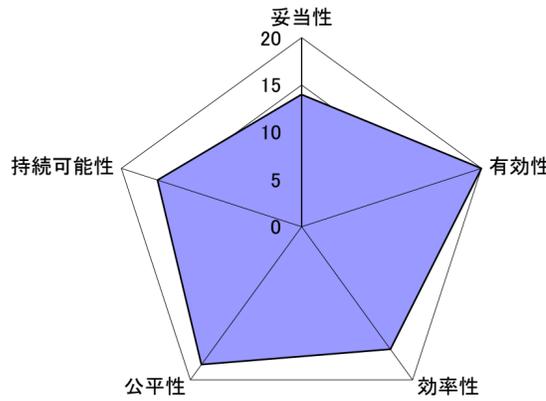
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	14	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 b. 実施意義は今もある。(3点)	3	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	20	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 a. 活動指標や有効指標には、他市との比較も可能な、それぞれ別の定量的な指標設定をしている。(5点)	5	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	16	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
評価点合計 (100点満点)	84	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00899
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>中学生一人ひとりに学校の教育方針を明示し、中学生として望ましい生活習慣、授業規律等の心得を平素から自覚させるとともに、当該中学校の生徒であることを証明し、諸届等学校と家庭との連携に利用するため、生徒手帳を作成し活用している。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	教育活動支援事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成17年度	改正 内容												
(2) 直近の改正														
(3) 根拠法令等														
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり											
	節	1												
	細節	12												
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理 <input type="checkbox"/> 建設事業 <input checked="" type="checkbox"/> その他											
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	全公立小・中学校の児童・生徒											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	市内の公立小・中学校において、外国人講師等の外部人材を活用することにより、国際理解教育を充実させる												
(7) 事業概要	<p>共催行事である連合音楽会や教育美術展の実施に伴う経費の助成、校外学習で引率教職員等が施設に入場する際の入館料の助成。児童・生徒が国際理解を深め、国際協調の精神を育むために、外国人講師を招聘し、国際理解の充実を図る。また、聴覚障がい者を有する保護者に対して学校での懇談会や教育相談等に手話通訳者を派遣する等、学校教育活動を支援する。</p>													
(8) H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	5	中事業	7	小事業	1
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		3,363	3,127	4,158	3,813	4,080							
	人件費	職員数	人	0.50	0.56	0.80	0.80							
		総額(B)	千円	4,150	4,451	6,682	6,682							
	総事業費(A+B)		7,513	7,578	10,840	10,495	12,250							
	(内訳)	特定財源(C)		0	0	0	0							
		国		0	0	0	0							
		府		0	0	0	0							
	その他		0	0	0	0								
	(内訳)	市負担(D)		7,513	7,577	10,840	10,495							
		地方債		0	0	0	0							
		その他		0	0	0	0							
一般財源		7,513	7,577	10,840	10,495	12,250								
財源計(C+D)		7,513	7,577	10,840	10,495	12,250								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他		内容												

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00	
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(3) が 困難な場合を示す		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	
	達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0				
①	活動内容	連合音楽会や教育美術展の実施に伴う経費の助成。校外学習で引率教職員等の施設入館料の助成。国際理解教育における学習環境の整備として外国人講師等派遣と派遣外国人講師等の保険加入を行う。			目標	音楽会や美術展の充実、施設入館の機会を保障する。外国人講師等の外部人材を活用し、国際理解教育を充実させる。	
	②	成果内容	音楽会や美術展を通し児童・生徒に芸術感覚を育むことができている。様々な施設を利用する機会が増えることで体験活動を保障できている。また児童・生徒に国際感覚を育むことができている。			達成状況	それぞれの学校のニーズに応じた配置ができた。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		音楽や美術に学校外で触れる機会を設けることで、児童・生徒の芸術感覚をさらに育むことができている。校外学習等で様々な施設に入館し体験する機会が保障されることによって、児童・生徒の体験学習によって育まれる力が確実に伸びてきている。 自国文化及び異国文化を理解するなど、グローバル化が進展する社会の中で広い視野をもつ子どもの育成が、今後ますます求められる。児童や生徒が相手の意見に耳を傾けるとともに、自分の考えや意志を表現し、積極的にコミュニケーションを図る基礎的な能力・態度は育って来ている。 以上のことから考慮して、今後も事業の推進は必要である。				

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	00900	事業名	教育活動支援事業	事業区分	その他

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。		
		b. 市が関与すべき事業であるが、その範囲や担い手には民間委託など検討の余地がある。(3点)	3	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。		
		b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。		
		a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。		
		b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。		
		a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。		
		a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。		
		a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。		
		a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。		
		b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	12	①サービスの対象範囲は適正ですか。		
		b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。		
		b. サービスの水準は高く、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。		
		b. 受益者負担を求めているが、見直しを検討する余地がある。(3点)	3	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。		
		b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	80	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00900
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	<table border="1"> <caption>Radar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>視点</th> <th>評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>持続可能性</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>			視点	評価結果	妥当性	15	有効性	10	効率性	10	公平性	10	持続可能性	10
視点	評価結果														
妥当性	15														
有効性	10														
効率性	10														
公平性	10														
持続可能性	10														
(3)現状分析	<p>各種教育研究団体との共催行事への助成等を行うことは、より円滑な教育活動の推進に繋がる。また、校外学習時に、引率教職員が施設等に入館する際の経費を市が負担することにより、児童・生徒の安全面の確保や活動の充実が図られている。</p> <p>小・中学校の「総合的な学習の時間」等の国際理解教育において、児童・生徒が自ら課題をみつけ解決する学習として、外国人講師等による講演、交流等を実施し、国際感覚を育てている。また、多文化理解、人権意識など多様性教育や学校のニーズに応じた外部人材を派遣し、国際理解教育の充実に努めた。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

平成26年度から「教育研究団体支援事業」、「入場入館料補助事業」、「国際理解教育プログラム推進事業」を統合し、「教育活動支援事業」に再編した。

事務事業評価調書

事務事業名	米沢富美子子ども科学賞(吹田市子ども科学作品展)事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	22		改正内容											
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部		<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)											
		<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)													
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6)	目的	対象(誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		目標(どういう状態にしたいのか)	範囲等	小・中学校の児童・生徒											
		結果(どのような効果が得られるのか)	科学や自然、環境への興味・関心と知的好奇心・探求心に応じた科学技術に出会う機会の充実を図り、理科・数学が好きな児童・生徒の育成と、市制70周年を機にはじめることで、学習意欲の向上や能力の伸長を目指す。 児童・生徒の科学や自然、環境への興味・関心を引き出し、学習意欲の向上や児童・生徒の個性や能力のさらなる伸長を図ることができる。												
(7)	事業概要	応募対象は吹田市内小・中学校の児童・生徒で、科学(理科)に関する実験や観察、調査など自主研究の作品を出品してもらい、その中から好奇心あふれる作品6点を選び、表彰する。													
(8)	H27事業別予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	3	中事業	4	小事業	1
(9)	事業費と財源の内訳	項目		平成26年度(2014年度)		平成27年度(2015年度)		平成28年度(2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		307	323	307	321	329							
		人件費	職員数	人	0.05	0.11	0.05	0.05	0.10						
			総額(B)	千円	415	875	418	418	817						
		総事業費(A+B)		722	1,198	725	739	1,146							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		722	1,197	725	739	1,146							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			722	1,197	725	739	1,146								
財源計(C+D)		722	1,197	725	739	1,146									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容 全小・中学校に作品を募集し、作品の出品を呼びかける。	目標値	(単位:)	53.00	54.00	54.00	
			実績値	(単位:)	53.00	54.00		
			達成度(%)		100.0	100.0		
	目標値の積算方法	市内全公立小・中学校	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		13.58	13.69	
				一般財源(単位:千円)		13.58	13.69	
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値				(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)				0.0	0.0			
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
(3) が 困難な場合を示す		①	指標内容 応募数	目標値	(単位:)	528.00	540.00	540.00
	実績値			(単位:)	391.00	417.00		
	達成度(%)			74.1	77.2			
	目標値の積算方法	各学年2作品(12)×募集小学校数(36)+各学年2作品(6)×募集中学校数(18)	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		1.84	1.77	
				一般財源(単位:千円)		1.84	1.77	
	(4) 総合評価	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値				(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	
	一般財源(単位:千円)				0.00	0.00		
①	活動内容	本市出身の著名な物理学者の講演を伺い、本物に触れ、科学や自然、環境への関心と知的好奇心・探究心に応じた科学技術に出会う機会とする。			目標	受賞を受ける吹田市内小・中学校の児童・生徒を中心とした関係者が参加し、講演から科学への関心を高める。		
		②	成果内容	児童・生徒が身近な事象を捉え、理科・科学への新たな気づきや興味・関心を持つことができる。			達成状況	概ね達成している。
今後の方向性(実施計画)				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
評価の説明		「米沢富美子こども科学賞」は、吹田市出身の世界的な物理学者に接することができ、科学や自然、環境への関心と知的好奇心・探究心に応じた科学技術に出会う機会となっている。理科に対する学習意欲の喚起に繋がっている。						

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	00901	事業名	米沢富美子子ども科学賞(吹田市子ども科学作品展)事業	事業区分	その他

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点			
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点	
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点	
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点	
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点	
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点	
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点	
(2) 有効性 (20点)	18	③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点	
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点	
		①単位当たりコストは適正ですか。 b. 単位当たりコストは概ね適正であるが、改善の余地がある。(3点)	3	点	
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点	
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点	
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点	
(3) 効率性 (20点)	12	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点	
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点	
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点	
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点	
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点	
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点	
(4) 公平性 (20点)	18	③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点	
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点	
		評価点合計 (100点満点)	80	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))	

所属名	指導室	事務事業番号	00901
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他												
(2)各視点からの評価結果	<table border="1"> <caption>各視点からの評価結果 (Radar Chart Data)</caption> <thead> <tr> <th>視点</th> <th>評価結果 (点数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妥当性</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>持続可能性</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>			視点	評価結果 (点数)	妥当性	15	有効性	10	効率性	10	公平性	10	持続可能性	10
視点	評価結果 (点数)														
妥当性	15														
有効性	10														
効率性	10														
公平性	10														
持続可能性	10														
(3)現状分析	<p>児童・生徒の科学や自然、環境への興味・関心を引き出し、学習意欲の向上や児童・生徒の個性や能力のさらなる伸長を図ることとした。応募対象は吹田市内小・中学校の児童・生徒で、科学(理科)に関する実験や観察、調査など自主研修の作品を出展し、作品6点を選び表彰するとともに、米沢富美子氏の講演を実施した。</p>														

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	小中一貫教育推進事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成16年度	改正 内容	小中一貫教育推進事業に小中一貫教育校千里みらい夢学園推進事業を統合											
(2) 直近の改正	平成26年度													
(3) 根拠法令等	学校教育法第20条、38条 学校教育法施行規則第24条、53条													
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	小中一貫教育校(千里みらい夢学園)を含む公立小・中学校											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	各中学校ブロックにおいて指導の充実及び指導力、学校経営力の向上を図る等、小中一貫教育の推進を図る。また、小中一貫教育校においてコミュニケーション力の育成を課題においた小中9年間の英語教育研究を行う。 各中学校ブロックにおいて、小中一貫教育について研究し実践を進めることにより、9年間を見通した教育を行うことが可能になる。また小中一貫教育校が英語教育研究の成果を発信し、研究が一層推進される。												
(7) 事業概要	市内全中学校ブロックにおいて、9年間を見通した「めざす子ども像」を共有し、学習指導・生徒指導の充実及び教職員の指導力、学校運営力の向上を図るため、外部から講師を招聘して研究を推進するとともに、研究内容について発信を行う。 小中一貫教育校に専任の英語指導助手を配置し、教育課程特例校として小学校1年生から英語活動を実施するとともに、小学校6年生は毎週金曜日に中学校に登校し、中学校教員の授業を受けるなど、小中連携への取組の推進を図る。													
(8) H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	3	中事業	5	小事業	1
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		5,126	4,954	1,380	1,252	1,210							
	人件費	職員数	人	0.70	0.76	0.90	0.00							
		総額(B)	千円	5,810	6,040	7,517	0							
	総事業費(A+B)		10,936	10,994	8,897	1,252	8,563							
	特定財源(C)		16	16	0	0	0							
	(内訳)	国	0	0	0	0	0							
		府	0	0	0	0	0							
		その他	16	16	0	0	0							
	市負担(D)		10,920	10,978	8,897	1,252	8,563							
	(内訳)	地方債	0	0	0	0	0							
		その他	0	0	0	0	0							
一般財源		10,920	10,978	8,897	1,252	8,563								
財源計(C+D)		10,936	10,994	8,897	1,252	8,563								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他		内容												

2 評価の指標等

指標項目			項目	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容 小中一貫教育校(千里みらい夢学園)でのAETによる英語活動の取組を推進する。	目標値	(単位:時間)	1,200.00	1,200.00	/
			実績値	(単位:時間)	1,200.00	1,200.00	
		達成度(%)		100.0	100.0		
	目標値の積算方法 小中一貫教育校(千里みらい夢学園)でのAETによる3校での英語活動時間数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	8.76	1.04		
			一般財源(単位:千円)	8.76	1.04		
	②	指標内容 千里みらい夢学園における小中一貫教育推進会議への指導主事出席回数	目標値	(単位:回)	10.00	10.00	
実績値			(単位:回)	10.00	10.00		
達成度(%)			100.0	100.0			
目標値の積算方法 千里みらい夢学園における小中一貫教育推進会議実施回数		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	1,051.70	125.20		
			一般財源(単位:千円)	1,051.70	125.20		
(2) 成果指標		①	指標内容 小中一貫教育校(千里みらい夢学園)でのAETによる英語活動の取組成果を各中学校ブロックへ発信する。	目標値	(単位:回)	2.00	1.00
	実績値			(単位:回)	2.00	1.00	
	達成度(%)		100.0	100.0			
	目標値の積算方法 英語活動の公開授業における研究成果の発表回数	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	5,258.50	1,252.00		
			一般財源(単位:千円)	5,258.50	1,252.00		
	②	指標内容 千里みらい夢学園以外の17中学校ブロックにおける小中一貫教育推進のための取組回数	目標値	(単位:回)	0.00	459.00	/
実績値			(単位:回)	0.00	473.00		
達成度(%)			0.0	103.1			
目標値の積算方法 会議(12)、児童生徒校種間交流(3)、オープンスクール(3)、交換授業(4)、研究授業(3)、合同研修(2)		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	2.65		
	一般財源(単位:千円)		0.00	2.65			
(3) が 困難 な 場合 示 合 す	①	活動内容 市内全中学校ブロックにおいて、9年間を見通した「めざす子ども像」を共有し、学習指導・生徒指導の充実及び教職員の指導力、学校運営力の向上を図る。	目標	小中一貫教育の推進及び発信			
	②	成果内容 各学校で共有化を図るとともに、各小中学校ならびに各中学校ブロックにおける取組に活かすことで、本市の小中一貫教育の充実を図る。	達成状況	本市の全小中学校間の円滑な接続や、9年間を見通した教育を行うことが可能になる。			
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		<p>本市では、従来より小中一貫教育を柱に、学力向上に向けた授業づくり、生徒指導体制の充実など、研究及び教育活動を推進しており、一定の成果をあげてきた。今後も、これまでの研究成果を整理した上で、新たな着眼点で本市教育施策を推進することが必要である。</p> <p>また、小中一貫教育校(千里みらい夢学園)は、平成23年度から文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、小学校1年生から専任の英語指導助手を活用し、英語でのコミュニケーション力の育成を図っている。平成25年度には、竹見台中学校生徒による英語能力判定テストの結果として、リスニング力をはじめとして、どの分野についても成果が見られ、小学校1年生からの英語教育の効果が認められている。</p> <p>以上の成果及び目的のため、この事業を継続することが望ましい。</p>				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	小中一貫教育推進事業	事業区分	その他
事務事業番号	00902				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。		
		a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。		
		a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。		
a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点		
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。		
b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点		
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。		
		b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。		
		a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。		
a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点		
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。		
a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点		
(3) 効率性 (20点)	16	①単位当たりコストは適正ですか。		
		a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。		
		a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。		
b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点		
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。		
b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点		
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。		
		a. 不特定多数を対象としている。(5点)	5	点
		②サービスの水準は適正ですか。		
		b. サービスの水準は高く、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。		
a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点		
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。		
a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点		
(5) 持続可能性 (20点)	20	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。		
a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点		
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。		
a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点		
評価点合計 (100点満点)	90	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00902
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

市内全中学校ブロックにおいて、道徳の時間の公開授業をはじめ、合同会議や研究授業、合同研修会等を開催し、必要に応じて講師を招聘し、教職員の指導力向上につながった。

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input checked="" type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>市内全中学校ブロックにおいて、9年間を見通した「めざす子ども像」を共有し、学習指導・生徒指導の充実及び教職員の指導力、学校運営力の向上を図るため、外部から講師を招聘し、研究を進めている。各校の取組のステップアップを図るとともに、増加している若年層の教職員の意識を高めるため、テーマや取組内容を見直した「吹田市小中一貫教育実施プランⅡ」を作成した。「プランⅡ」をもとに、取組の充実を目指す必要がある。小中一貫教育校(千里みらい夢学園)は、本市小中一貫教育のリーディングスクールとして、専任の英語指導助手を活用し、小中9年間の英語教育研究をはじめ、様々な取組を推進している。英語指導助手からの生きた英語を学ぶ習慣が定着し始め、平成25・26・27年度と続けて、市内外を問わず参加することのできる研究発表会を実施した。加えて、留学生との交流等では、児童・生徒とも英語で自然にコミュニケーションを図れる場面も見られる。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

平成27年度から「英語教育に関するもの」を「英語教育推進事業」に移管

事務事業評価調書

事務事業名	環境教育推進事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	14	改正 内容	ビオトープ整備事業の事業一部変更して実施											
(2) 直近の改正	19													
(3) 根拠法令等														
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	環境教育に取り組む公立小・中学校の児童・生徒											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	学校ビオトープ・緑のカーテン等で学習環境を整備し、地域人材の支援を得ながら体験的な環境学習の充実を図る。 体験的な活動を通して、自然環境への認識を深め、循環型社会の担い手として、社会に貢献する態度を養う。												
(7) 事業概要	学校ビオトープ及び、緑のカーテン作り等の体験的な環境学習を推進するとともに、地域人材の支援を得ながら環境教育の充実を図る。													
(8) H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	1	目	3	大事業	3	中事業	6	小事業	1
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		430	196	430	408	200							
	人件費	職員数	人	0.20	0.26	0.10	0.10	0.10						
		総額(B)	千円	1,660	2,067	836	836	817						
	総事業費(A+B)		2,090	2,263	1,266	1,244	1,017							
	特定財源(C)		0	0	0	0	0							
	(内訳)	国		0	0	0	0	0						
		府		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
	市負担(D)		2,090	2,262	1,266	1,244	1,017							
	(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
一般財源		2,090	2,262	1,266	1,244	1,017								
財源計(C+D)		2,090	2,262	1,266	1,244	1,017								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他	内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容 当該年度における新規のビオトープ・緑のカーテン実施校及びビオトープ整備校	目標値	(単位:)	3.00	2.00	/
			実績値	(単位:)	3.00	2.00	
			達成度(%)		100.0	100.0	
	目標値の積算方法 当該年度実施校	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	595.33	622.00		
			一般財源(単位:千円)	595.33	622.00		
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00	
達成度(%)				0.0	0.0		
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(3) が困難な場合		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00	
	達成度(%)			0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
①	活動内容	学校ビオトープ・緑のカーテン等を設置し、維持管理する。			目標	学校ビオトープ・緑のカーテン等を通して、体験的な環境学習の充実を図る。	
	②	成果内容	自然環境への認識を深め、循環型社会の担い手として、社会に貢献する態度を養う。			達成状況	当該年度実施校にて実施。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		今日的な課題を取り扱う「総合的な学習の時間」の取組の例示として環境教育があげられるが、本事業は、自然環境への認識を深め、循環型社会の担い手として、社会に貢献する態度を養うとともに、学校ビオトープ、緑のカーテンを通して、地域人材を活用し、体験的学習を実施することに寄与できた。				

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	00903	事業名	環境教育推進事業	事業区分	その他

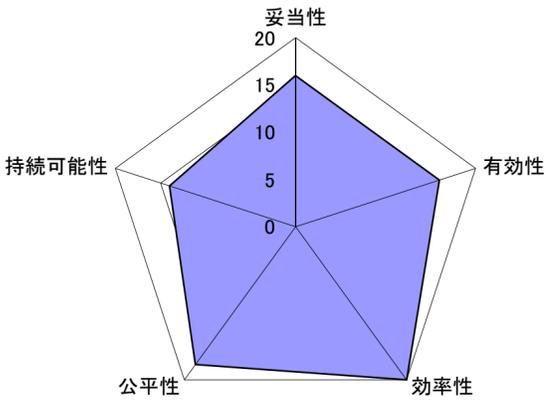
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	16	②事業の目的と受益者が一致していますか。 b. 事業の目的と受益者は概ね一致している。(3点)	3	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	20	②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	14	②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。 b. 事業費は増大するが、市負担は増大しない見込みである。(3点)	3	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
		評価点合計 (100点満点)	84	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))

所属名	指導室	事務事業番号	00903
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>平成27年度は、学校ビオトープを18校、緑のカーテンを8校で実施した。「総合的な学習の時間」等における環境教育として、地域人材を活用しながら、学校ビオトープ、緑のカーテンをとおして、体験学習の推進に努めている。また、JAをはじめ農業委員会や農家の協力のもと、学童農園事業を実施し、18校の小学校で、5年生が田植え・稲刈りを行う体験学習も実施した。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	学校体育助成事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	不明	改正 内容													
(2)	直近の改正															
(3)	根拠法令等	吹田市学校体育活動助成金交付要領														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)												
		一部にチェックした場合はその説明														
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	14								
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他										
		範囲等	公立小・中学校の児童・生徒													
		目標 (どういう状態にしたいのか)	児童・生徒を支援することで、体育的活動の運営・参加ができるようにする。													
(6)	結果 (どのような効果が得られるのか)	児童・生徒を様々な体育的活動に参加させることにより、運動に対する肯定感を高め、運動好きな子どもを育成することで、基礎体力・運動能力の向上を図る。														
(7)	事業概要	児童生徒対外競技交通機関使用料、府等の中学校体育連盟への負担金、小中学校体育連盟への補助金といった学校体育振興に関する事業。														
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	6	目	2	大事業	4	中事業	1	小事業	1	
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)								
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)								
		事業費(A)		3,333	3,194	3,661	3,284	3,637								
		人件費	職員数	人	0.10	0.16	0.10	0.10	0.10							
			総額(B)	千円	830	1,272	836	836	817							
		総事業費(A+B)		4,163	4,466	4,497	4,120	4,454								
		特定財源(C)		0	0	0	0	0								
		(内訳)	国		0	0	0	0	0							
			府		0	0	0	0	0							
			その他		0	0	0	0	0							
		市負担(D)		4,163	4,466	4,497	4,120	4,454								
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0							
			その他		0	0	0	0	0							
一般財源			4,163	4,466	4,497	4,120	4,454									
財源計(C+D)		4,163	4,466	4,497	4,120	4,454										
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施														
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①												
				②												
				③												
		<input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①	吹田市小学校体育連盟補助金											
②	吹田市中学校体育連盟補助金															
③	府などの中学校体育連盟への負担金															
<input type="checkbox"/> その他	内容															

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
		目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
	一般財源(単位:千円)			0.00	0.00			
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
	一般財源(単位:千円)		0.00	0.00				
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
		目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
	一般財源(単位:千円)			0.00	0.00			
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
	一般財源(単位:千円)		0.00	0.00				
(3) が 困難な場合を示す	①	活動内容	児童生徒対外競技交通機関使用料、府等中学校体育連盟への負担金、小中学校体育連盟への補助金など学校体育振興に関する事業。			目標	児童・生徒を様々な体育活動に参加させる。	
	②	成果内容	児童・生徒を様々な体育的活動に参加させることにより、運動に対する肯定感を高め、運動好きな子どもを育成することで、基礎体力・運動能力の向上を図る。			達成状況	概ね達成できている。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		基礎体力の向上、健康維持は、社会を生き抜くための基盤である。また、スポーツにより精神力の鍛錬を図ることもでき、「健やかな体」と「豊かな心」の育成において、スポーツの担う役割は重要である。児童・生徒にスポーツへの積極的な参加を支援する本事業は、体育活動の充実を図るため必要である。					

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	00904	事業名	学校体育助成事業	事業区分	その他

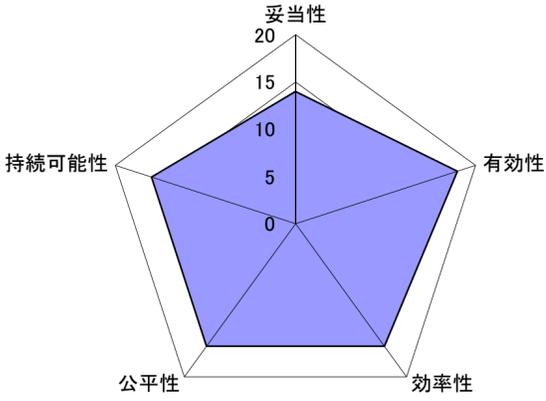
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	14	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 b. 実施意義は今もある。(3点)	3	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	18	②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 b. 受益者負担を求めているが、見直しを検討する余地がある。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	16	④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 c. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は高い。もしくは比較・分析までできていない。(1点)	1	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
評価点合計 (100点満点)	80	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00904
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>学校教育のみならず健康教育・生涯教育において運動やスポーツに親しむことは推進すべきことであり、その充実を図る必要がある。児童・生徒には、様々な体育活動に参加させることにより、基礎体力の向上を図るとともに総合的人間力の育成をめざしている。本市が様々な体育活動を助成することで、児童・生徒の運動能力の向上に寄与している。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	宿泊行事助成事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	不明	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	宿泊行事付添看護師経費助成要領													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乗せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	14							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	公立小・中学校の児童・生徒												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	児童・生徒を、安全かつ健康的な条件のもと宿泊行事に参加させる。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	宿泊行事における、児童・生徒の安全が確保され、健康的な活動ができる。													
(7)	事業概要	宿泊を伴う学校行事における児童・生徒の健康の管理と迅速な対応に向けて、看護師が付き添う際の必要な経費を助成する。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	6	目	2	大事業	4	中事業	2	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		4,611	4,509	4,692	4,554	4,855							
		人件費	職員数	人	0.20	0.36	0.30	0.30	0.50						
			総額(B)	千円	1,660	2,861	2,506	2,506	4,085						
		総事業費(A+B)		6,271	7,370	7,198	7,060	8,940							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		6,271	7,370	7,198	7,060	8,940							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			6,271	7,370	7,198	7,060	8,940								
財源計(C+D)		6,271	7,370	7,198	7,060	8,940									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他	内容														

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	看護師配置のべ回数	目標値	(単位:回)	106.00	108.00	108.00
			実績値	(単位:回)	128.00	133.00		
		達成度(%)				120.8	123.1	
	目標値の積算方法	2回/1校×54校	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		47.65	53.08	53.08
				一般財源(単位:千円)		47.65	53.08	
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
実績値				(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)					0.0	0.0		
目標値の積算方法			単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
(3) が困難な場合		①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00
	実績値			(単位:)	0.00	0.00		
	達成度(%)				0.0	0.0		
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)				0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00	0.00	
			一般財源(単位:千円)		0.00	0.00		
①	活動内容	宿泊を伴う学校行事における児童・生徒の健康の管理と迅速な対応のため、看護師が付き添う際の必要な経費を助成する。(各校年2回まで)			目標	児童・生徒を、安全かつ健康的な条件のもと宿泊行事に参加させる。		
	②	成果内容	宿泊行事における、児童・生徒の安全が確保され、健康的な活動ができる。			達成状況	すべての学校に看護師の配置ができています。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		子どもの健康、安全を保障し、豊かな体験活動等教育活動を推進することは大切な取組である。宿泊行事における、児童・生徒の安全が確保され、健康的な活動ができるため、この事業は必要である。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	宿泊行事助成事業	事業区分	その他
事務事業番号	00905				

1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	18	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	14	①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 b. 迅速なサービス提供のための取組について検討している。(3点)	3	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	16	①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 b. 受益者負担を求めているが、見直しを検討する余地がある。(3点)	3	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	16	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
評価点合計 (100点満点)	82	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00905
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>宿泊を伴う学校行事等の豊かな体験活動は、子どもに集団の一員として望ましい行動や規律、公共のマナー、仲間との協力等、総合的人間力の育成・向上に欠かすことのできない教育活動である。また、各学校での宿泊を伴う学校行事にて、看護師が付き添い、児童・生徒の健康の管理と迅速な対応により、宿泊学習中の児童・生徒の健康・安全を保障できるようにしている。しかし、少年自然の家の活用に伴う助成が廃止され、看護師の配置を要する宿泊行事を2回以上実施する学校が増えており、今後の課題となっている。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	中学校配慮を要する生徒に係る空調設備整備事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成13	改正 内容												
(2)	直近の改正														
(3)	根拠法令等	学校教育法第75条(昭和23年3月31日法律第26条)													
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	21							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input checked="" type="checkbox"/> 建設事業	<input type="checkbox"/> その他									
		範囲等	公立中学校の支援学級、通級指導教室に在籍する生徒												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	体温調節の困難な病虚弱生徒や、計画的な機能訓練が必要な生徒の学習や活動を、適切な環境のもと効果的に行うことができる。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	生徒一人ひとりの状況や発達に応じた適切な教育を行い、すべての生徒がともに学び、ともに育つ教育を推進することができる。													
(7)	事業概要	支援学級、通級指導教室において、体温調節の困難な病虚弱生徒や静かな環境で言葉の機能訓練等の必要な生徒の学習や活動が効果的に行われるように、順次エアコンを設置する。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	3	目	1	大事業	3	中事業	99	小事業	99
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		1,480	13,606	0	0	0							
		人件費	職員数	人	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00						
			総額(B)	千円	0	159	0	0	0						
		総事業費(A+B)		1,480	13,765	0	0	0							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		1,480	13,765	0	0	0							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			1,480	13,765	0	0	0								
財源計(C+D)		1,480	13,765	0	0	0									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①													
		②													
		③													
<input type="checkbox"/> その他		内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	支援学級・通級指導教室へのエアコン設置校数	目標値	(単位:校)	1.00	0.00	/
			実績値	(単位:校)	1.00	0.00		
		達成度(%)		100.0	0.0			
	目標値の積算方法	全教室設置に向けての年次計画の中で設置	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		13,606.00	0.00	
				一般財源(単位:千円)		13,606.00	0.00	
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)		0.00	0.00		
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
		達成度(%)		0.0	0.0			
	目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00		0.00
				一般財源(単位:千円)		0.00		0.00
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)		0.0	0.0					
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)		0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)		0.00	0.00		
(3) の3が困難な場合を示す	①	活動内容	支援学級、通級指導教室において、体温調節の困難な病虚弱生徒や静かな環境で言葉の機能訓練等の必要な生徒の学習や活動が効果的に行われるよう順次エアコンを設置する。			目標	障がいのある生徒の安全で充実した学校生活を保障する。	
	②	成果内容	体温調節の困難な病虚弱生徒や、計画的な機能訓練が必要な生徒の学習や活動を、適切な環境のもと効果的に行われる。			達成状況	平成26年度にすべての支援学級に空調設備の設置。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		支援学級、通級指導教室では、体温調節のできない病虚弱生徒や静かな環境で言葉や情緒の機能訓練等の必要な児童の学習や活動が効果的に行われるように、エアコン設置による環境整備を実施してきた。今後も障がいの重度化・多様化、在籍数の増加が予想されるため、引き続き実情に応じた環境整備が必要である。					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	中学校配慮を要する児童に係る空調設備整備事業	事業区分	その他
事務事業番号	00906				

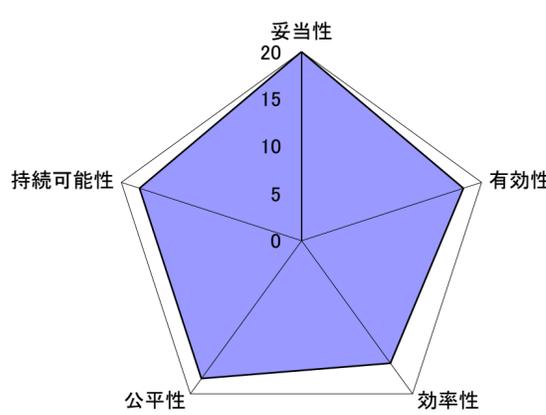
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	18	②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	16	②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 c. 他の事業・取組との連携は検討していない。(1点)	1	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 a. 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている。(5点)	5	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 b. 現在の事業のあり方で、一定の事業効果は得られるが、見直しにより、さらに効果的な事業にできる余地がある。(3点)	3	点
		評価点合計 (100点満点)	90	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))

所属名	指導室	事務事業番号	00906
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>支援学級・通級指導教室では、体温調節のできない病虚弱生徒や静かな環境で言葉や情緒の機能訓練等の必要な児童生徒の学習や活動が効果的に行われるように、エアコン設置による環境整備を実施してきた。今後も障がいの重度化・多様化、在籍数の増加が予想されるため、引き続き実情に応じて、全ての支援学級や通級指導教室へのエアコン設置が必要である。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	小学校副読本作成事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	不明	改正 内容	道徳・社会・体育副読本作成事業を小学校副読本作成事業に統合											
(2)	直近の改正	平成26年度													
(3)	根拠法令等														
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
		一部にチェックした場合はその説明													
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	12							
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
		範囲等	【社会科】公立小学校3・4年生児童【体育科】公立小学校1・3・5年生児童												
		目標 (どういう状態にしたいのか)	【社会科】自分たちが住んでいる地域社会の学習内容の充実 【体育科】楽しく運動ができ、動きを理解し、運動能力の向上を目指す。												
	結果 (どのような効果が得られるのか)	【社会科】地域学習を円滑に進め、社会的な物の見方を育てる学習ができる。【体育科】児童が意欲的に取り組むための学習ができ、体力・運動能力を向上させることができる。													
(7)	事業概要	小学校の社会科、体育の副読本を作成し、それぞれに授業等で活用し、学習への理解や円滑な推進を図る。													
(8)	H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	2	目	1	大事業	4	中事業	1	小事業	1
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
		事業費(A)		4,775	4,703	4,764	4,345	3,948							
		人件費	職員数	人	0.10	0.16	0.10	0.00	0.10						
			総額(B)	千円	830	1,272	836	0	817						
		総事業費(A+B)		5,605	5,975	5,600	4,345	4,765							
		特定財源(C)		0	0	0	0	0							
		(内訳)	国		0	0	0	0	0						
			府		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
		市負担(D)		5,605	5,975	5,600	4,345	4,765							
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
			その他		0	0	0	0	0						
一般財源			5,605	5,975	5,600	4,345	4,765								
財源計(C+D)		5,605	5,975	5,600	4,345	4,765									
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
				②											
				③											
		主な委託内容													
		<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①											
②															
③															
<input type="checkbox"/> その他		内容													

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
			達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)			0.0	0.0				
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00				
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00				
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/	
			実績値	(単位:)	0.00	0.00		
			達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00		/
実績値			(単位:)	0.00	0.00			
達成度(%)			0.0	0.0				
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00				
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00				
(3) が困難な場合を示す	①	活動内容	副読本を活用することにより全体の授業の質を一定の水準に高め、学習を円滑に進める。			目標	全ての対象児童が活用する。	
	②	成果内容	副読本を活用することにより、運動能力の向上、社会的な見方、道徳性を育てる効果を発揮している。			達成状況	児童が活用しやすく学びが深まる学習活動ができている。	
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定	
	評価の説明		<p>【社会】児童たちが住んでいる地域社会についての、学習内容が充実した副読本の編集や作成を行い、活用することは、児童が社会のしくみに対して興味を持って学習を進めることにつながり、吹田・大阪を好きになるなど地域社会に対する誇りと愛情の育成に資する。</p> <p>【体育】体育の授業において、具体的な運動・ゲームの提案だけでなく、児童がめあてを持って体育学習に取り組むための手だてとなっており、学習現場での活用場面が多い。その結果、児童が意欲的に運動に取り組む体力・運動能力の向上につながっている。さらに、本市の体育学習の特徴でもある泳力の向上に対応できるような編集により、泳力を身に付けさせるのに効果を発揮している。</p> <p>【道徳】平成31年度から道徳の教科化により教科書が採択され、また、平成29年度中に学校教育情報通信ネットワークの再構築が予定されているため、本副読本を電子データ化し適宜教材として活用できるよう整備する等の検討を行う。</p>					

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	小学校副読本作成事業	事業区分	その他
事務事業番号	00907				

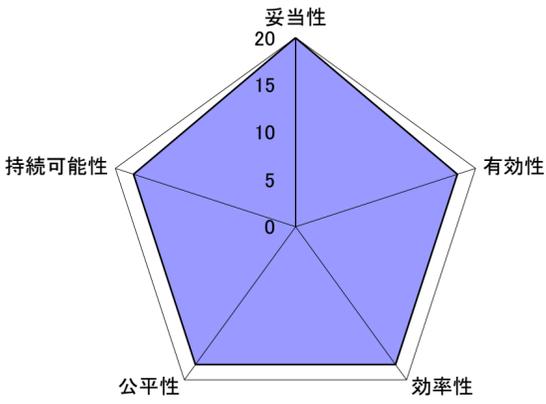
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。		
		a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。		
		a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。		
a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点		
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。		
a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点		
(2) 有効性 (20点)	18	①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。		
		b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
		②事業の目的と受益者が一致していますか。		
		a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。		
a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点		
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。		
a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点		
(3) 効率性 (20点)	18	①単位当たりコストは適正ですか。		
		a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。		
		a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。		
a. 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っている。(5点)	5	点		
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。		
b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点		
(4) 公平性 (20点)	18	①サービスの対象範囲は適正ですか。		
		b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
		②サービスの水準は適正ですか。		
		a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。		
a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点		
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。		
a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点		
(5) 持続可能性 (20点)	18	①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありませんか。		
		a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。		
b. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準はやや高い。(3点)	3	点		
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。		
a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点		
評価点合計 (100点満点)	92	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))		

所属名	指導室	事務事業番号	00907
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>社会科の学習において、児童たちが住んでいる地域社会についての副読本活用することは、地域社会に対する誇りと愛情の育成に資する。また、体育の授業において、具体的な運動・ゲームの提案だけでなく、児童がめあてを持って体育学習に取り組むための手だてとなっており、学習現場での活用場面が多い。その結果、児童が意欲的に運動に取り組み、体力・運動能力の向上につながっている。さらに、本市の体育学習の特徴でもある泳力の向上効果を発揮している。道徳においては、児童が生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断等の規範意識等の道徳性を身に付けることは、道徳教育の充実につながる。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

平成26年度より「小学校社会科副読本作成事業」、「小学校体育副読本作成事業」、「小学校道徳教育副読本作成事業」が統合し、「小学校副読本作成事業」に再編
 平成30年度より小学校において「特別の教科道徳」が施行される。それに伴い、検定教科書も採択される。

事務事業評価調書

事務事業名	小学校水泳安全指導事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1) 事業開始年度	平成13年度	改正 内容	夏休みのプールの安全指導員に対する報償費を廃止。委託から直営に変更。											
(2) 直近の改正	平成22年度													
(3) 根拠法令等														
(4) 市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乘せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし (国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)											
	一部にチェックした場合はその説明													
(5) 総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	14							
(6) 目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input type="checkbox"/> 建設事業	<input checked="" type="checkbox"/> その他									
	目標 (どういう状態にしたいのか)	範囲等	公立小学校児童及び臨海学習実施小学校											
	結果 (どのような効果が得られるのか)	児童が泳力を身に付けることにより、自分の命を守ることができるようにする。												
(7) 事業概要	小規模校における水泳安全指導員及び小学校の臨海学習時に水泳安全指導員を配置することで、安全な水泳指導を行うことができる。													
(8) H27事業別 予算コード	会計	1	款	10	項	2	目	1	大事業	5	中事業	2	小事業	1
(9) 事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)							
			予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)							
	事業費(A)		1,124	1,281	1,188	1,236	1,580							
	人件費	職員数	人	0.01	0.07	0.10	0.10	0.10						
		総額(B)	千円	83	557	836	836	817						
	総事業費(A+B)		1,207	1,838	2,024	2,072	2,397							
	特定財源(C)		0	0	0	0	0							
	(内訳)	国		0	0	0	0	0						
		府		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
	市負担(D)		1,207	1,837	2,024	2,072	2,397							
	(内訳)	地方債		0	0	0	0	0						
		その他		0	0	0	0	0						
一般財源		1,207	1,837	2,024	2,072	2,397								
財源計(C+D)		1,207	1,837	2,024	2,072	2,397								
(10) 実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施													
	<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①											
			②											
			③											
	主な委託内容													
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①												
		②												
		③												
<input type="checkbox"/> その他		内容												

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(2) 成果指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
			達成度(%)		0.0	0.0	
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	
実績値			(単位:)	0.00	0.00		
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00			
		一般財源(単位:千円)	0.00	0.00			
(3) が困難な場合を示す	①	活動内容	小規模校(単学級の学年がある学校、つまり、全校で11学級以下の学校)および、臨海学習(現在31校で実施)時に安全指導員を配置することで、安全な水泳指導を行うことができる。			目標	児童に、泳力を身につけさせるとともに豊かで健全な生活を保障する。
	②	成果内容	児童が泳力を身につけることにより、自分の命を守ることができるようになるとともに、基礎体力の向上を図る。			達成状況	達成している。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		水泳指導時の安全監視体制は直接児童の命に係わることなので大変重要である。学校の水泳管理基準等では、水泳授業を行う場合は、大プールのみ使用の場合は最低でも3人、小プール併用でも5人以上の監視体制をとるよう規定している学校が多い。しかし、学年1クラスや2クラスの小規模校(全校で11学級以下)にとっては、担任だけでは監視体制が不十分になることが多く、管理職等の応援体制を組むことが多い。しかし、その応援体制も人員・時間割の関係で、水泳学習期間中常時とれる保障がなく、本事業を継続することが児童の水泳学習時の安全確保に直接結びつく。				

事務事業分析シート

所属名	指導室	事業名	小学校水泳安全指導事業	事業区分	その他
事務事業番号	00908				

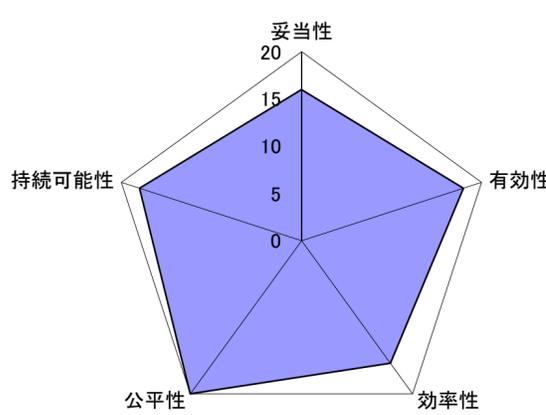
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点			
(1) 妥当性 (20点)	16	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点	
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 b. 施策や政策課題の推進にとって、効果のある事業である。(3点)	3	点	
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点	
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 b. 市民ニーズは変わらずある。(3点)	3	点	
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点	
		②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点	
(2) 有効性 (20点)	18	③事業は目標どおりに進捗していますか。 a. 目標を上回る又は目標どおりの進捗状況である。(5点)	5	点	
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 a. 目標以上又は目標どおりの具体的な成果を上げている。(5点)	5	点	
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点	
		②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点	
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 b. 他の事業・取組との連携を検討をしている。(3点)	3	点	
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点	
(3) 効率性 (20点)	16	①サービスの対象範囲は適正ですか。 a. 不特定多数を対象としている。(5点)	5	点	
		②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点	
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点	
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点	
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 b. 事業費は増大したが、市負担はそれほど増加していない。(3点)	3	点	
		②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 a. 事業費や市負担はほとんど増大しない見込みである。(5点)	5	点	
(4) 公平性 (20点)	20	③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点	
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点	
		評価点合計 (100点満点)	88	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))	

所属名	指導室	事務事業番号	00908
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果			
(3)現状分析	<p>小学校の児童を対象に安全な指導体制の下、適切な水泳指導を行うことにより、児童に豊かで健全な生活を保障し、水難事故等から身を守る力を身につけるよう指導している。また、臨海学習時に安全指導員を配置し、安全な指導体制の下、指導の充実を図っている。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)

事務事業評価調書

事務事業名	吹田市立学校エレベーター設置事業				
担当部名	学校教育部	室課名	指導室	室課長名	島田 雅弘

1 事務事業の概要

(1)	事業開始年度	平成13年度	改正 内容						
(2)	直近の改正								
(3)	根拠法令等	障害者基本法(教育)第十六条(平成23年8月5日改正)学校施設の整備その他の環境の整備							
(4)	市単独事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 全部	<input type="checkbox"/> 一部(上乗せ、横出し等あり)	<input type="checkbox"/> なし(国・府制度もしくは法令等で市が実施する義務あり)					
		一部にチェックした場合はその説明							
(5)	総合計画の体系	章	4	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり	節	1	細節	21	
(6)	目的	対象 (誰を、何を)	区分	<input type="checkbox"/> 内部管理	<input checked="" type="checkbox"/> 建設事業	<input type="checkbox"/> その他			
		範囲等	公立小・中学校に在籍する、車椅子等を利用する、自力での校舎内上下移動が困難な児童・生徒						
		目標 (どういう状態にしたいのか)	エレベーターの活用により、自力での校舎内の上下移動がスムーズになり、他の児童・生徒と同じリズムで学校生活を送る。						
	結果 (どのような効果が得られるのか)	エレベーターの設置により、安全で迅速な教室移動が可能となり、児童・生徒の円滑な学校生活が保障される。							
(7)	事業概要	公立小・中学校に在籍する、自力での校舎内上下移動が困難な児童・生徒の教育及び学校生活を保障するため、エレベーターを設置する。							
(8)	H27事業別 予算コード	会計	款	項	目	大事業	中事業	小事業	
(9)	事業費と 財源の内訳	項目		平成26年度 (2014年度)		平成27年度 (2015年度)		平成28年度 (2016年度)	
				予算(千円)	決算(千円)	予算(千円)	決算見込(千円)	予算(千円)	
		事業費(A)		0	0	0	0	0	
		人件費	職員数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			総額(B)	千円	0	0	0	0	0
		総事業費(A+B)		0	0	0	0	0	
		特定財源(C)		0	0	0	0	0	
		(内訳)	国		0	0	0	0	0
			府		0	0	0	0	0
			その他		0	0	0	0	0
		市負担(D)		0	0	0	0	0	
		(内訳)	地方債		0	0	0	0	0
			その他		0	0	0	0	0
一般財源			0	0	0	0	0		
財源計(C+D)		0	0	0	0	0			
(10)	実施方法 (該当するものは全部チェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施							
		<input type="checkbox"/> 委託又は一部委託	委託先	①					
				②					
				③					
		主な委託内容							
<input type="checkbox"/> 補助金・負担金	交付先	①							
		②							
		③							
<input type="checkbox"/> その他	内容								

2 評価の指標等

指標項目			項目		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)
(1) 活動指標	①	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	0.00	/
			実績値	(単位:)	0.00	0.00	
		達成度(%)		0.0	0.0		
	目標値の積算方法	単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
	(2) 成果指標	②	指標内容	目標値	(単位:)	0.00	
実績値				(単位:)	0.00	0.00	
達成度(%)			0.0	0.0			
目標値の積算方法		単位当たりコスト	総事業費(単位:千円)	0.00	0.00		
			一般財源(単位:千円)	0.00	0.00		
(3) の3が困難な場合を示す		①	活動内容	吹田市小・中学校に在籍する、自力での校舎内上下移動が困難な児童・生徒の教育及び学校生活を保障するため、エレベーターを設置する。			目標
	②	成果内容	エレベーターの活用により、階段昇降機の活用では校舎内の上下移動が困難な生徒の移動がスムーズになり、他の生徒と同じリズムで学校生活を送る。			達成状況	エレベーター設置の希望校は多いが、達成できていない。
(4) 総合評価	今後の方向性(実施計画)		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 終期の設定
	評価の説明		吹田市小・中学校に在籍する、車椅子等を利用する、自力での校舎内上下移動が困難な児童・生徒にとって、エレベーターの活用により上下移動が安全に行え、安全な教室移動が可能となり、円滑な学校生活が保障される。				

事務事業分析シート

所属名	指導室				
事務事業番号	01342	事業名	吹田市立学校エレベーター設置事業	事業区分	その他

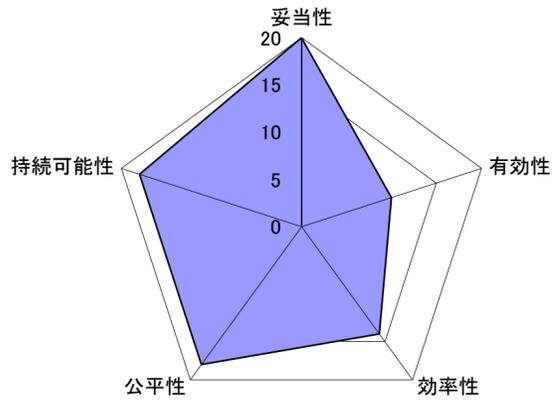
1 各視点からの評価 ※内部管理事務は「公平性」の評価不要

評価の視点	評価点	チェック項目【プルダウンメニューで選択してください。】※各設問5点満点		
(1) 妥当性 (20点)	20	①役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切ですか。 a. 市が関与すべき事業であり、その範囲も担い手も最適である。(5点)	5	点
		②この事業を進めることは、施策や政策課題の推進に効果がありますか。 a. 施策や政策課題の推進にとって、優先順位の高い重要な事業である。(5点)	5	点
		③社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていませんか。 a. 実施意義は今も増している。(5点)	5	点
		④利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していませんか。 a. 客観的なデータで市民ニーズが高いことを把握している。(5点)	5	点
		①活動指標・有効指標それぞれに定量的な指標設定を行っていますか。 b. 活動指標や有効指標には定量的な指標設定をしている。又は指標設定は困難であるが目標や達成状況は分析している。(3点)	3	点
(2) 有効性 (20点)	10	②事業の目的と受益者が一致していますか。 a. 事業の目的と受益者は完全に一致している。(5点)	5	点
		③事業は目標どおりに進捗していますか。 c. 事業の進捗はかなり遅れている。(1点)	1	点
		④市民に説明できる具体的な成果を上げていますか。 c. 具体的な成果があまりない状況である。(1点)	1	点
		①単位当たりコストは適正ですか。 a. 単位当たりコストは適正である。(5点)	5	点
(3) 効率性 (20点)	14	②迅速なサービスの提供に努めていますか。 a. 迅速なサービス提供のための取組を具体的に取り組んでいる。(5点)	5	点
		③他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っていますか。 c. 他の事業・取組との連携は検討していない。(1点)	1	点
		④事業手法の検討、事務改善に取り組むなど、事業効率の向上に努めていますか。 b. 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる。(3点)	3	点
		①サービスの対象範囲は適正ですか。 b. 特定の者を対象としているが、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(3点)	3	点
(4) 公平性 (20点)	18	②サービスの水準は適正ですか。 a. サービスの水準は適正で、受益者以外の市民から見ても理解が得られる。(5点)	5	点
		③適正な受益者負担を求めていますか。 a. 適正な受益者負担を求めている。又は受益者負担を必要としない理由・根拠がある。(5点)	5	点
		④公平性を確保するための取組みをしていますか。 a. 滞納等には速やかに適正な措置を講じており、収納率も高い。又はそのような取組が必要がない事業である。(5点)	5	点
		①事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していませんか。 a. 事業費や市負担はほとんど増加していない。(5点)	5	点
(5) 持続可能性 (20点)	18	②今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にありますか。 b. 事業費は増大するが、市負担は増大しない見込みである。(3点)	3	点
		③府内類似団体(又は北摂各市)の類似事業と比較・分析していますか。 a. 定期的に比較・分析しており、事業費の水準は適正である。(5点)	5	点
		④将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができますか。 a. 現在の事業のあり方で、期待する事業効果を十分得ることができる。(5点)	5	点
		評価点合計 (100点満点)	80	← ※自動計算します。 (内部管理事務は公平性の評価点がないため、各視点の合計×1.25(小数点以下切捨て))

所属名	指導室	事務事業番号	01342
-----	-----	--------	-------

2 各視点からの評価の点数では表れない事項(必要に応じて記載)

3 事務事業の現状分析

(1)本事業の位置付け	<input type="checkbox"/> 主要な政策課題としての取組	<input type="checkbox"/> 部として重点的な取組	<input checked="" type="checkbox"/> その他
(2)各視点からの評価結果	 <p>The radar chart displays the following scores for each dimension:</p> <ul style="list-style-type: none"> 妥当性: 20 有効性: 10 効率性: 10 公平性: 10 持続可能性: 10 		
(3)現状分析	<p>吹田市小・中学校に在籍する、車いす等を利用する、自力での校舎内上下移動が困難な児童・生徒にとって、エレベータの活用により上下移動が安全な教室移動が可能となり、円滑な学校生活が保障される。</p>		

4 その他(国・府の動向など、当該事業に関する特記事項)